

朝倉工業団地遺跡群No.2

株式会社吉田鉄工所新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2013.8

前橋市教育委員会
株式会社吉田鉄工所
有限会社毛野考古学研究所

朝倉工業団地遺跡群No.2

株式会社吉田鉄工所新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

朝倉工業団地遺跡群

2013.8

前橋市教育委員会
株式会社吉田鉄工所
有限会社毛野考古学研究所



棲名二ツ岳渋川テフラ下の畠跡（1区、北西から）



棲名二ツ岳渋川テフラ下の水田跡（15・16区、南から）

例　　言

- 1 本書は、株式会社吉田鉄工所の工場建設に伴い実施した朝倉工業団地遺跡群No.2の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査は、前橋市教育委員会の指導・監督のもとに、株式会社吉田鉄工所の委託を受け、有限会社毛野考古学研究所が実施した。調査担当者は、同研究所員井上 太である。
- 3 発掘調査・整理作業の実施期間は、平成24年11月26日～平成25年8月30日である。
- 4 本調査の調査区の地番、面積及び遺跡番号、並びに略称は下記のとおりである。

所在地地番：前橋市下佐島町1番4　外37筆　　面積：5,291m²
遺跡番号：00805　　略称：24G75
- 5 本調査の遺構測量は、小出拓磨・竹中洋治（有限会社毛野考古学研究所員）が担当した。
- 6 本書の編集は有限会社毛野考古学研究所が行い、井上が担当した。
- 7 本書の執筆は、Iを福田貴之（前橋市教育委員会）、その他を井上が担当した。
- 8 調査に関わる資料は一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。
- 9 発掘調査・整理作業に関わった方々は下記のとおりである。（五十音順、敬称略）

〔発掘調査〕 秋間直人　阿久津 澄　井口ヒロ子　石原 功　井出 穂　井上ゆかり　岩井 寛
内田一郎　岡村美弥子　狩野友好　川島隆好　小板橋進一郎　齋藤清一　志村久子
白砂福造　関口佳紀　高橋富美男　滝原忠男　竹渕 進　田島 守　竹生正明
勅使河原幸枝　永井史途　西山勝久　萩原秀子　橋元裕児　畠山孝四郎　畠佐博司
春原正克　平沢房之介　森下綾子　森山孝子　森山孝男　山田友子　湯浅美和子
〔整理作業〕 下條真美代　闇小百里　高橋奈緒　竹中美保子　武士久美子　半澤利江　伴場りく
- 10 発掘調査の実施から報告書刊行に至る間、下記の機関・方々のご指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げる。（順不同・敬称略）

J.T空撮　山下工業株式会社　梅澤重昭　坂口 一　青木利文

凡　　例

- 1 挿図の座標北には、世界測地系（国家座標第IX系）を使用した。方位記号は座標北を示す。
- 2 等高線や断面図中における水準値は、海拔標高を示す（単位：m）。
- 3 掲載の遺構図及び遺物実測図の縮尺率は、各挿図中にスケールで表示した。
- 4 グリッドは、原点（X=39,500・Y=66,900）より西から東へX0,X1,…、北から南へY0,Y1,…と付した。
- 5 遺構断面図及び遺物観察表に示した色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会事務局・財團法人日本色彩研究所監修）を使用した。
- 6 本書中のテフラの呼称は、下記のとおりである。

A s - A、A軽石：1783年（天明3年）に噴出した浅間Aテフラ。
A s - B、B軽石：1108年（天仁元年）に噴出した浅間Bテフラ。
H r - F A、F A：6世紀初頭に噴出した榛名ニツ岳洪川テフラ。
A s - C、C軽石：3世紀末～4世紀初頭に噴出した浅間Cテフラ。
- 7 本書掲載第1図には、国土交通省国土地理院発行の1/200,000「長野」・「宇都宮」、第2図に同院発行の1/25,000地勢図「前橋」・「高崎」、第3図には「前橋市都市計画図」1/2,500を一部加工して使用した。
- 8 表紙には、『昭和61年航空写真集前橋市全城』の空中写真を使用した。

目 次

例言	IV 遺跡の概要 6
凡例	1 遺構・遺物の概要 6
目次	2 基本層序 6
挿図目次	V 検出遺構 7
表目次	1 A s - B 層下面の調査 7
写真図版目次	2 H r - F A 層下面の調査 21
I 調査に至る経緯 1	VI 出土遺物 38
II 遺跡の位置と環境 1	VII まとめ 43
1 地理的環境 1	1 古墳時代から平安時代 43
2 歴史的環境 2	2 平安時代末以降 44
III 調査の方法と経過 4	写真図版
1 調査の方法 4	抄録
2 調査の経過 4	

挿図目次

第1図 遺跡の位置 1	第14図 H r - F A 層下調査面全体図(2) 23
第2図 周辺の遺跡 3	第15図 H r - F A 層下畠跡 24
第3図 調査区配置図 5	第16図 H r - F A 層下水田跡 25
第4図 基本層序 6	第17図 W-27号、36号～42号溝跡 30
第5図 A s - B 層下調査面全体図(1) 8	第18図 W-43号、45号～51号溝跡 31
第6図 A s - B 層下調査面全体図(2) 9	第19図 W-30号、52号～59号溝跡 32
第7図 A s - B 層下水田跡 10	第20図 W-26号、35号、60号～62号溝跡 33
第8図 W-1号～5号溝跡 16	第21図 D-2号土坑 34
第9図 W-6号～11号、14号、15号溝跡 17	第22図 D-3号～9号土坑、I-1号井戸 35
第10図 W-12号・16号・17号、 19号～23号溝跡 18	第23図 2区、5区包含層 36
第11図 W-24号～26号、 28号・29号・32号溝跡 19	第24図 溝跡出土遺物(1) 38
第12図 W-30号・31号、33号～ 35号溝跡、D-1号土坑 20	第25図 溝跡出土遺物(2)、土坑出土遺物、 畠跡出土遺物、包含層出土遺物(1) 39
第13図 H r - F A 層下調査面全体図(1) 22	第26図 包含層出土遺物(2) 40
	第27図 時期別遺構位置図 45

表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧表	2	第6表 溝跡出土遺物観察表	41
第2表 A s - B 層下水田跡区画計測表	10	第7表 土坑出土遺物観察表	41
第3表 H r - F A 層下水田跡区画計測表	25	第8表 崩跡出土遺物観察表	41
第4表 平安時代末期以降の溝跡一覧	37	第9表 包含層出土遺物観察表	42
第5表 古墳時代から平安時代の溝跡一覧	37		

写真図版目次

巻頭写真

棲名二ツ岳渋川テフラ下の崩跡（1区）	P L. 5
棲名二ツ岳渋川テフラ下の水田跡（15・16区）	W-3号溝土層断面（8区）
P L. 1	W-4号溝土層断面（14区）
調査地と浅間山、棲名山	W-6号溝土層断面（14区）
A s - B 層下調査面全景	W-7号溝（13区）
P L. 2	W-9号溝（12区）
7・11・13・14区北半、8区	W-10号溝・11号溝（12区）
7・11・13・14区南半、12区	W-12号溝土層断面（13区）
P L. 3	W-13号溝（13区）
7区全景	P L. 6
11区全景	W-14号溝・15号溝（8区）
13区全景	W-16号溝土層断面（8区）
14区全景	W-17号溝土層断面（11区）
A s - B 下水田跡 区画③～⑩（14区）	W-19号溝・20号溝土層断面（11区）
A s - B 下水田跡 区画⑦～⑩（14区）	W-22号溝（12区）
A s - B 下水田跡 区画⑦～⑩（14区）	W-23号溝（12区）
A s - B 下水田跡 区画①～③水口（14区）	W-24号溝・25号溝・26号溝（7区）
P L. 4	W-26号溝・32号溝土層断面B-B'（7区）
A s - B 下水田跡 区画②～④水口（14区）	P L. 7
A s - B 下水田跡 区画⑥～⑧水口（14区）	W-26号溝・32号溝土層断面D-D'（7区）
A s - B 下水田跡 区画⑧～⑩水口（14区）	W-28号溝土層断面（7区）
A s - B 下水田跡 畦畔断ち割りA（14区）	W-29号溝（7区）
A s - B 下水田跡 畦畔断ち割りC（14区）	W-30号溝土層断面（7区）
A s - B 混土水田跡 捩似畦畔、及びW-17号・ 18号溝（11区）	W-31号溝土層断面（7区）
W-1号溝土層断面（14区）	W-33号溝（3区）
W-2号溝土層断面（14区）	W-35号溝土層断面（6区）
	D-1号土坑（6区）

P L. 8

H r - F A層下調査面全景

1区

P L. 9

2~4区、7区北半

5・6区、7区南半

P L. 10

15~20区

1区全景

2区全景

3区全景

7区全景

P L. 11

15・16区全景

17区全景

H r - F A下畠跡（1区）

H r - F A下畠跡 遺物出土状況（1区）

H r - F A下畠跡 断ち割り状況（1区）

H r - F A下水田跡（5・6区①~⑤）

H r - F A下水田跡（7区⑪~⑯）

H r - F A下水田跡（15区①~⑦）

P L. 12

H r - F A下水田跡 畦畔断ち割り①（15区⑤・⑦）

H r - F A下水田跡 畦畔断ち割り②（16区⑦・⑧）

W-27号溝（環濠屋敷跡）（5・6区）

W-27号溝（環濠）北辺部（5・6区）

W-27号溝（環濠）東辺部（5・6区）

W-27号溝（環濠）土層断面B-B'（5・6区）

W-30号溝・59号溝（5・6区）

P L. 13

W-36号溝（1区）

W-36号溝土層断面（1区）

W-36 b 号溝 遺物出土状況（1区）

W-37号溝（1区）

W-39号溝土層断面（1区）

W-40号溝（19区）

W-41号溝・42号溝（19区）

W-45号溝土層断面（18区）

P L. 14

W-46号溝（18区）

W-49号溝、包含層土層断面（17区）

W-50号溝（15区）

W-51号溝（15区）

W-52号溝、包含層土器出土状況（2区）

W-52号溝土層断面（3区）

W-53号溝（3区）

W-54号~58号溝（2区）

P L. 15

W-54号溝・56号溝・57号溝土層断面（2区）

W-54号溝 土器出土状況（2区）

W-57号溝 枝部（2区）

W-60号溝土層断面（5・6区）

W-61号溝土層断面（5・6区）

W-26号溝・62号溝土層断面D-D'（7区）

D-2号土坑（18区）

D-3号土坑（5・6区）

P L. 16

D-5号土坑（7区）

D-6号土坑（7区）

D-7号土坑（7区）

D-7号土坑土層断面（7区）

I-1号井戸（5・6区）

17区包含層 西端部遺物出土状況

17区包含層 西側遺物出土状況

5区包含層 遺物出土状況

P L. 17

溝跡出土遺物

土坑出土遺物

畠跡出土遺物

包含層出土遺物（1）

P L. 18

包含層出土遺物（2）

I 調査に至る経緯

朝倉工業団地は平成 23 年 1 月の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。その後、道路箇所については記録保存を目的とした発掘調査を実施した。各々の区内については進出する各社と協議を行ない、現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることとなった。

平成 24 年 1 月 18 日、株式会社吉田鉄工所より埋蔵文化財の取り扱いについて問い合わせがあった。以降、調査期間や調査の方法について数回に亘り協議を行なった。その結果、現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることで合意を得た。発掘調査については、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、民間調査組織が行なうこととなった。平成 24 年 11 月 15 日付けで、株式会社吉田鉄工所と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査業務委託契約が締結され、同年 11 月 15 日付けで株式会社吉田鉄工所、有限会社毛野考古学研究所、前橋市教育委員会との間で発掘調査に関する協定書を締結し、同年 11 月 26 日から現地調査を開始した。

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

本遺跡は、前橋市域の南東部「前橋台地」の東辺近くに位置する。前橋台地は、約 2 万年前の浅間山噴火による山体崩壊を起源とする「前橋泥流」が、利根川によって運ばれ赤城山・榛名山間から関東平野に流出する部分に堆積して形成された扇状地性台地である。台地上にはその後の中小河川の浸食によって、北西から南東方向に多くの自然堤防・後背湿地が形成されている。

台地の東辺は、利根川の旧流路である広瀬川低地帯の段丘崖によって画されている。この崖上には高燃な地形が帶状に連なり、この西には高崎市・玉村町にかけて広大な水田地帯が広がっている。現在この水田域の中を、中世に流路が変流したと考えられている利根川が貫流しており、本遺跡は現在の利根川と前橋台地北東縁辺の間の水田地帯のほぼ中間で、南流している小河川の「端氣川」沿いに位置している。

端氣川は前橋台地北部の湿地帯に源をもつ自然流路であり、古墳時代から水田開発に利用されてきた水源の一つと考えられている。



第 1 図 遺跡の位置

2 歷史的環境

周辺では繩文・弥生時代の遺跡はほとんど確認されていないが、櫻島川端遺跡や徳丸仲田遺跡では弥生時代後期の住居跡や遺物がわずかに検出されている。

遺跡数が急増するのは古墳時代前期からで、上記の2遺跡を含めた10遺跡で調査されており、多数の集落が周辺の自然堤防や微高地に立地してくる。この背景として、台地上の小河川の利用や用排水路の開鑿などによる低地部の水田開発が考えられている。4世紀初めのA s - C層関連の水田跡は、本遺跡を初め11遺跡と各所で検出されている。徳丸仲田II遺跡では堰を伴った大規模な用水路が発見され、広範囲に及ぶ組織的な開発が行われたと推定されている。

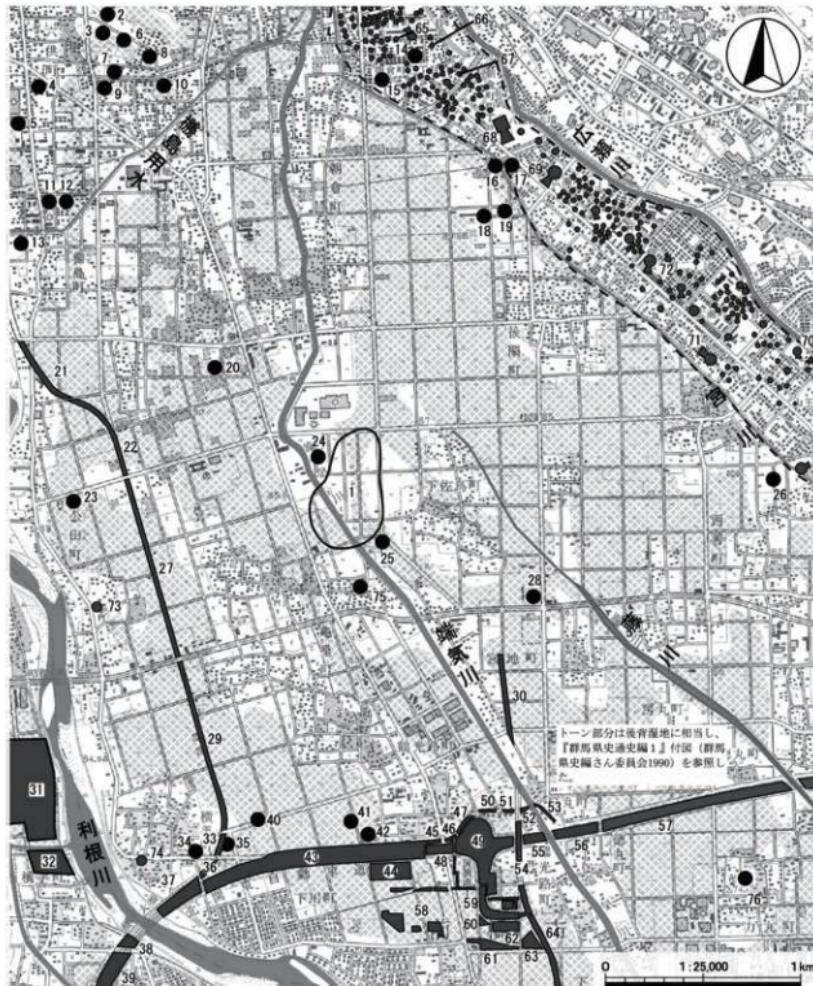
これらの水田開発を主導したとみられる首長層の墳墓が築かれた地として、台地の東辺に朝倉・広瀬古墳群が分布している。古墳前期に限っても、全長130mの東日本最大の前方後方墳である前橋八幡山古墳、129mの前方後円墳で三角縁神獣鏡などの5面の銅鏡を出土した前橋天神山古墳が占地している。上記の水田城を生産基盤とした、当時の毛野地域を代表する勢力であったと考えられている。また、同時期の円墳である朝倉II号古墳や、公田東遺跡では前方後方形周溝墓も検出されている。

古墳中期の集落遺跡は、現在のところ横手早稲田・横手湯田遺跡程度と発見は少なく、集落域が移動する可能性がある。しかし中期後半から後期には再び遺跡数が多くなり、本遺跡を含め7遺跡が知られる。6世紀代のHr-F A及びHr-F P層関連の水田跡の検出例も數を増し、本遺跡を初めとして22遺跡で確認され、さらなる水田域の拡大が想定される。朝倉・広瀬古墳群では引き続き多くの有力古墳が築かれ、全体としては150基以上の古墳が存在したと判明している。古墳時代全般を通じた県内最大級の古墳群といえる。

奈良・平安時代には引き続き集落遺跡は広く微高地に展開している。また、周辺一帯でも条里制の施行が考えられ、水田城はさらに拡充されたとみられる。平安時代末期のA s - B層直下の水田跡は周辺のほとんどの遺跡で検出される状況で、その区画は条里区画を継承していることが判明している。

中世における大きな特色として環濠遺跡群の存在があげられる。南の玉村町にかけての一帯には、現在でも方形を基調とする濠をめぐらせた屋敷地や寺院などが散在している。前橋市域だけでも数十カ所に上り、環濠の一部と考えられる溝跡が検出されている遺跡も数多い。周辺の宿阿内城址・力丸城址はこのような環濠屋敷が複合・発展した形態ととらえられ、那波氏一族に関連する室町・戦国期の城館址と考えられている。

第1表 周辺の遺跡一覧表（福田・和久、2012上り）



(福田・和久 2012 を一部改編)

- | | | | | | | |
|-------------|--------------|-------------|--------------|--------------|---------------|-----------|
| 1 新倉工業団地遺跡群 | 12 東京安寺 | 23 公田東(調査会) | 34 戸井南 | 45 村中Ⅱ | 56 徳丸高塚・同Ⅱ | 67 朝倉3号墳 |
| 2 六供下京安寺 | 13 櫛島川端Ⅱ | 24 下依鳥 | 35 横手宮田Ⅱ | 46 西田Ⅴ | 57 猪大株田・同Ⅲ~IV | 68 八幡山古墳 |
| 3 六供下堂木V | 14 長山 | 25 川曲 | 36 横手早船田 | 47 西田Ⅲ | 58 同前田区御園Ⅲ | 69 天神山古墳 |
| 4 六供中京安寺 | 15 織守廻り | 26 西善鍛冶屋 | 37 横手南川端 | 48 村中 | 59 下阿内町田 | 70 龍塚山古墳 |
| 5 中大門 | 16 後閑園地 | 27 公田池尻 | 38 西横手道路群 | 49 西田 | 60 同前田区御園Ⅵ | 71 上原二仙塚 |
| 6 六供下堂木II | 17 纏山 | 28 斎田 | 39 留横手三段川 | 50 西田Ⅱ | 61 同前田区御園Ⅰ | 72 大屋敷古墳 |
| 7 六供下堂木Ⅲ | 18 後閑 | 29 龜里平塚 | 40 龜里鉢面・同Ⅱ | 51 西田Ⅵ | 62 同前田区御園Ⅴ | 73 下川園3号墳 |
| 8 六供下堂木I | 19 後閑Ⅱ | 30 宮地中田 | 41 龜里曲面Ⅱ | 52 鶴光路横塚Ⅱ | 63 同前田区御園Ⅱ | 74 浅間神社古墳 |
| 9 六供下堂木IV | 20 上佐島中原前・同Ⅱ | 31 西横手道路群Ⅰ | 42 鶴光路横塚Ⅰ | 53 徳丸高塚Ⅲ・同IV | 64 下阿内前田 | 75 留阿内城 |
| 10 六供遺跡群 | 21 櫛島川端(浮遊Ⅱ) | 32 西横手道路群Ⅱ | 43 個田曲面・同Ⅱ~Ⅲ | 54 西田・西田Ⅳ | 65 朝倉2号塚 | 76 力丸城 |
| 11 南京安寺 | 22 公田東(事業団) | 33 横手宮田 | 44 朝倉3号墳Ⅳ | 55 鶴光路横塚 | 66 朝倉1号墳 | |

第2図 周辺の遺跡

III 調査の方法と経過

1 調査の方法

本遺跡地内はすでに前橋市教育委員会によって全面的に試掘調査が実施されており（『朝倉工業団地埋蔵文化財確認調査報告書』2011）、その調査成果と今回の開発事業の内容から調査範囲が決定された。調査範囲は遺跡に破壊が及ぶ構造物の基礎部分で、1区から20区までの調査区を設定した（第3図）。

主な調査対象はA s - B層下の水田跡と、H r - F A層下の水田跡等であり、一部の調査区は2面に及ぶ調査となった。調査面積は、1面目のA s - B層下面の面積が2,405 m²、2面目のH r - F A層下面が2,886 m²で、合計5,291 m²であった。

1面目の調査では、表土からA s - B層の上部までをバック・ホーで掘削し、その後は人力で遺構の検出にあたった。1面目はA s - B層下の水田跡のほか平安時代末以降の溝跡などの遺構を精査した。2面目では、1面目の調査区と重なる部分ではH r - F A層までの間層をバック・ホーで除去し、1～5区、15～20区では表土層からH r - F A層上面までをバック・ホーで掘削し、その後は人力で遺構の精査にあたった。このため、1面目の調査が終了している調査区では、H r - F A層下の水田跡などの古墳時代から平安時代末の間の遺構のみの調査となつたが、その他の調査区では平安時代末以降の遺構も検出されている。

検出された遺構は、時代などに問わらず検出順に種類毎に記号番号を付した。また調査区をまたがっていても同一遺構と確認された場合は、同じ遺構番号とした。記号は、Wは溝跡、Dは土坑、Iは井戸跡を表している。本書では調査時の遺構番号をそのまま使用している。

遺構・遺物の精査後は写真撮影、測量図面等の記録を作成した。写真撮影は、1面目・2面目ともに遺構検出終了後に全体の空中写真撮影を実施し、個別遺構は35 mmモノクロフィルム及びリバーサルフィルムと、デジタルカメラで撮影した。図面測量は、平面図はトータルステーションを用いて作成し、断面図は手実測で1/20縮尺で実施した。

2 調査の経過

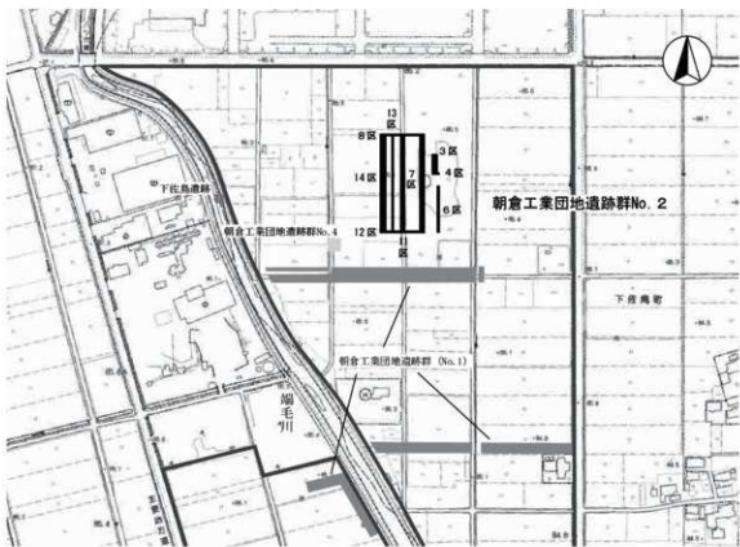
平成24年11月26日より調査に着手。まず基準杭や調査区を設定し、器材の準備・搬入の後、11月28日から1面目の対象地の表土掘削をバック・ホーにより開始した。11区から順次、8区14区7区13区12区6区3・4区と掘削し、1区の表土まで除去して、12月6日に終了した。現地事務所用プレハブは12月6日に搬入・設置した。

12月3日からは発掘補助員を投入し、人力による遺構の精査を開始。14区から順次東方に進め、最後に6区の精査を平成25年1月9日に終了した。1月10日からは空中写真撮影と平面測量を実施し、1月12日に1面目の調査を終了した。

2面目の調査は1月15日から開始し、まず1区から人力による遺構精査を開始し、その後順次17～20区、15・16区、2～4区、7～10区と作業を進めた。この間バック・ホーによる掘削を16日に開始し、28日に終了した。遺構の精査は2月12日に終了し、14日から16日にかけて空中写真撮影・測量業務を実施した。2月18～19日に器材の撤収・プレハブの解体・撤去を行い調査を終了した。

埋戻し作業は23日から26日にかけてブルドーザーを使用して実施し、現地の作業をすべて終了した。

整理・報告書作成業務は、平成25年3月から8月にかけて有限会社毛野考古学研究所において実施した。



A-B層下調査区



Hr-FA層下調査区

0 100 200m
1:5,000

第3図 調査区配置図

IV 遺跡の概要

1 遺構・遺物の概要

検出された遺構は、平安時代末期以降では、A s - B層直下の水田跡（11～14区）・溝跡1条、A s - B混土層の水田跡（11区）・溝跡7条、中世の溝跡（環濠屋敷跡を含む。）53条、土坑2基、井戸跡1基で、古墳時代から平安時代では、H r - F A層下の畠跡（1区）、同じく水田跡、溝跡6条、土坑3基、奈良時代から平安時代の溝跡3条、土坑4基、古墳時代中期の遺物包含層、奈良時代の遺物包含層などであった。これらのうち平安末期以降の遺構については、1面目の調査での検出と2面目の調査での検出が混在しており、次章の遺構の個別説明では調査面毎に順次記述し、最終的に時期別の全体図を添付することとする。

A s - B層直下の水田跡は、一次堆積層が遺存した14区から13区、及び11区の一部にかけて検出された。また、7区では一次堆積で直接埋没したW-26号溝が検出された。

A s - B混土層の水田跡は、11区のB直下の水田跡の東辺で南北畦畔を中心部分に検出された。

環濠屋敷跡（5・6区、7区）は、方形の全体の区画の北東部1/4程度の範囲とみられ、内部施設は不明な部分が多い。環濠から北東15mほどの位置で検出された1号井戸跡は関連する施設の可能性がある。

H r - F A層下の畠跡は1区のみの検出であった。

H r - F A層下の水田跡は極小区画の水田で、15・16区では良好な遺存状況で検出された。3区、5区、7区では痕跡が部分的に確認された程度であった。

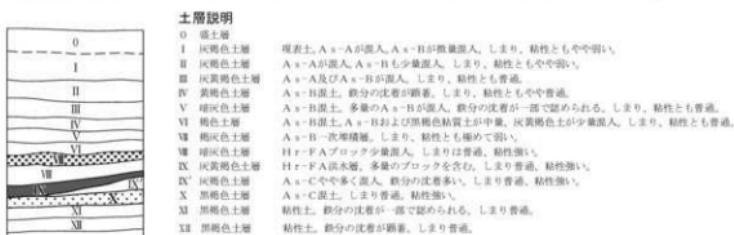
出土遺物は、全体の数量はパン箱2箱程であった。明確に遺構に伴う遺物は、1区畠跡の数点の土器片と、D-3号土坑の壺1点程度であり、大部分は17区のIX'層の遺物包含層から出土した土器群である。

2 基本層序

調査地内は昭和40年代の耕地整理事業を初め、後世の掘削・擾乱が頗著な地点が多く、調査区によって土層の堆積状況は多様であった。本遺跡地内ではすでに2度の発掘調査が実施されており、今回の調査地の南隣接地も工業団地土地区画整理事業に伴い調査されている。（『朝倉工業団地遺跡群』2012年）、このため今回の調査は基本的にこの際に設定された基本層序に準拠した。各層位と説明は下図のとおりである。

VII層は1108年降下のA s - B一次堆積層であり、これ以降はほぼ中世以後にあたると見える。IX層は6世紀初めのH r - F A層で、X層は4世紀初め頃の降下と考えられるA s - C輕石の混入する黒色土層である。

今回の17～20区の調査地点では、IX層とX層の間に洪水堆積層とみられる灰褐色粘質土層が存在した。17区では古墳時代中期初めの土器を多量に包含しており、これをIX'層として基本層序に追加した。



0 1:30 4 m

第4図 基本層序

V 検出遺構

1 A s - B層下面の調査

A s - B層下後の平安時代末期以降の遺構である。A s - B層は、14区から11区にかけての西半部は良好な堆積が認められたが、7区から3区や6区にかけての東半部では削平されていて確認されなかった。

1 水田跡

A s - B層下水田跡 (第5～7図・27図、PL. 2～4)

位置：11区の北端及び南北部分から、13・14区全体にかけて検出された。重複：W-1号～16号溝に切られている。地形：北から南への緩傾斜地であり、東から西へもわずかに低くなる。東方は本来もう少し高い地形であったとみられる。畦畔：14区で南北方向の畦畔が約100mの長さで検出された。また11区の中央部と12区でも南北畦畔が部分的に検出された。両畦畔の間は19m～24mほどである。東西方向の畦畔は南北畦畔に取り付く形で検出された。軸線はほぼ東西・南北方向を指向するが、大きく屈曲する部分もみられる。小畦畔のみであるが、南北畦畔が総体的にやや規模が大きく、下幅が36～77cm、高さ6.7cmを測る。区画：20区画が推定されるが、全形を知り得るものはない。区画⑦の推定面積は409m²ほどで、最大の区画である。傾斜が大きい南半部では区画は東西に細長い形態で、区画⑩は最小で107m²ほどと推定される。また、14区では半月状の不定形な区画⑪が検出されている。水田土壌は鉄分が多く沈着し、しまりと粘性の強い茶褐色土色が主で、畦畔もこの土壌で構築されていた。水口：南北畦畔の両脇の5カ所で検出された。いずれも北から南の方向への配水である。区画⑤と区画⑩の北西隅部分も本来水口があった可能性が強い。区画⑨の北東隅では、底に堰が2点設置された状況で検出された。遺物：出土していない。

A s - B混土層水田跡 (第5図・27図、PL. 2・4)

位置：11区の北半部で検出された。重複：W-15～18号溝に切られている。W-17・18号溝はこの畦畔を構築する際の土取り痕の可能性もある。地形：わずかに南方向に下がっている。畦畔：南北畦畔が約23mほどと、西に延びる東西畦畔の一部が2カ所で認められた。幅は35～55cmほどであるが、高さは残っておらず色調の違いで確認できる程度であった。区画：3区画が想定されるのみである。遺物：なし。

2 溝 跡

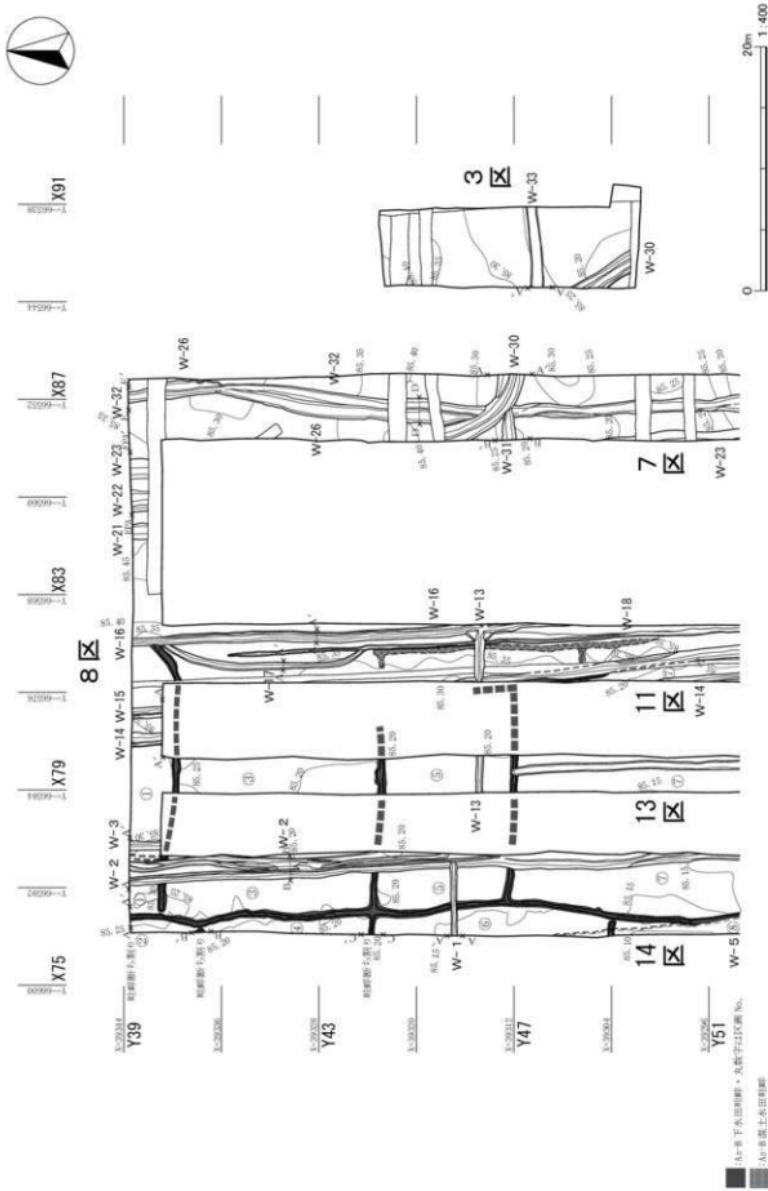
W-1号溝跡 (第5・8図、PL. 2・4)

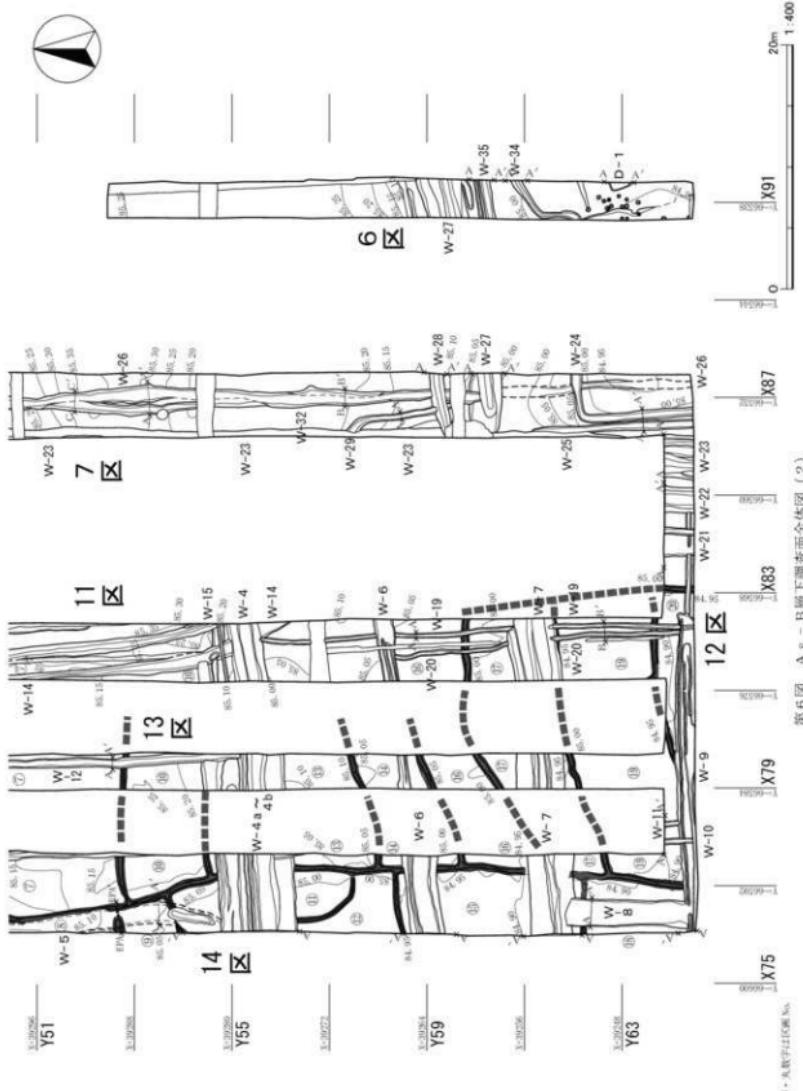
位置：14区北半部で、長さ6mほどが検出された。重複：W-2号溝に切られ、B下水田を切っている。規模・形態：走向は東西方向で、上幅0.75cm、深さ0.22cmほどである。断面形は逆台形状で、W-13号溝と連続しているとみられる。埋没状態：埋土上部にA軽石を含む。遺物：なし。時期：埋土の状況から近世以後とみられる。

W-2号溝跡 (第5・8図、PL. 2・4)

位置：14区北半部。南北に52mほどの長さにわたり検出された。重複：B下水田、W-1号溝を切っている。規模・形態：4条の溝が重なる状態で、北から南へ走行している。2a号は、U字形の断面で上幅48cm・深さ40cm、2b号は逆台形、2c号は箱型で、ともに上幅は1m以上とみられ、深さは26cmと80cmを計る。2d号は皿状で、上幅60cm・深さ10cmであった。底面には耕具痕の凹凸が目立つ。埋没状態：2a号・2b号は埋土の上部にA軽石を含む。遺物：2b号から混入とみられる土師器・須恵器小片が少量出土している。時期：埋土から2a号・2b号は近世以後とみられ、2c号・2d号も近い時期とみられる。

第5図 A s - B層下調査面全体系図 (1)

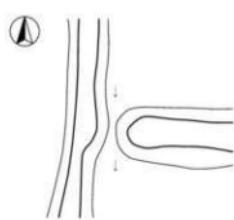




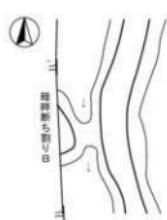
第6図 As-B層下調査面全体図(2)

A5-書下水田耕野・丸數字注記圖

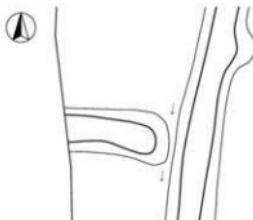
区画①→③水口



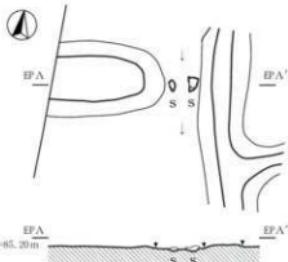
区画②→④水口



区画⑥→⑧水口



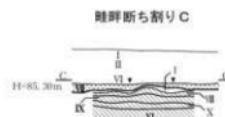
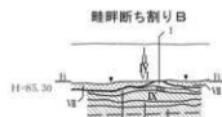
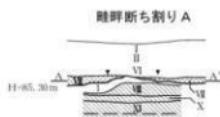
区画⑤→⑨水口



0 1 2m 1:60

畦畔断ち割り

1 茶褐色土層 沢分が多く沈着。しまり・粘性あり。
VII層の上面に広く分布。南に向かって薄い堆積となる。
この層が分布する範囲は水田面も茶褐色を呈する。



第7図 A s - B 層下水田跡

第2表 A s - B 層下水田跡区画計測表

面積は畦畔下端線の範囲、面積比高は同一区画内の最大值、畦畔高は印番と畦畔の比高を示す。
南北畦畔は区画の西側に、東西畦畔は区画の北側に位置するものを指す。()は推定又は複数値。

調査区	区画番号	面積 (m ²)	南北幅 (m)	東西幅 (m)	田面中央性 高(m)	田面比高 (cm)	南北畦畔高 (cm)	南北畦畔 上端幅(cm)	東西畦畔高 (cm)	東西畦畔 上端幅(cm)	東西畦畔 下端幅(cm)	備考
8 + 14	①	—	—	—	—	6.0	(21~28)	(47~66)	—	—	—	—
8 + 14	②	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13 + 14	③	—	17.4	—	865, 233	—	6.7	14~42	82~77	(7, 1)	(24~40)	(52~75)
14	④	—	(14, 3)	—	—	—	—	—	—	—	—	北東側に水口
13 + 14	⑤	—	11.2	—	865, 180	—	5.4	18~37	50~72	(6, 7)	(19~50)	(50~73)
14	⑥	—	(19, 7)	—	—	—	—	—	—	(6, 0)	(13~18)	(47~53)
13 + 14	⑦	(499)	23.5	(18, 7)	865, 163	—	(3, 80)	(18~23)	(49~62)	(3, 5)	(24~31)	(57~67)
14	⑧	—	(14, 8)	—	—	—	—	—	—	(2, 8)	(18~34)	(54~62)
14	⑩	—	(4, 8)	—	—	—	—	—	—	(3, 7)	(51~57)	(62~68) 北西側に水口有り。
13 + 14	⑪	—	8, 2	—	865, 233	—	2, 5	(28~32)	(56~74)	(1, 0)	(13~38)	(35~60)
14	⑫	—	(15, 3)	(4, 3)	—	—	(2, 2)	(14~22)	(36~50)	—	—	—
14	⑬	—	(25, 0)	—	—	—	—	—	—	(16~24)	(54~62)	半月形の区画
13 + 14	⑭	—	(18, 4)	—	—	—	2, 1	(23~30)	(36~59)	—	(19~23)	(52~69)
11 + 13 + 14	⑯	—	(6, 8)	—	—	—	(1, 2)	(22~38)	(56~72)	(4, 2)	(16~41)	(50~67)
14	⑯	—	(15, 5)	—	—	—	—	—	—	(5, 1)	(13~27)	(40~52)
11 + 13 + 14	⑯	—	—	—	—	—	(7, 3)	(21~31)	(53~63)	(4, 0)	(23~41)	(56~69)
11 + 13 + 14	⑰	—	—	—	—	—	—	—	—	(5, 5)	(31~42)	(55~72)
14	⑱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(18~23)	(38~53)
11 + 14	⑲	—	—	—	—	—	(5, 3)	—	—	(6, 2)	(13~32)	(47~61)
11 + 12	⑳	—	—	—	—	—	—	—	—	(6, 6)	(29~37)	(43~66)

W-3号溝跡（第5・8図、PL. 2・5）

位置：8区西方で、2.5mの長さで検出された。重複：なし。規模・形態：W-2号溝と並行して南北方向に走る。上幅56cm・深さ38cmを計り、断面形はU字形を呈する。埋没状態：埋土の上半部にはA軽石を含む。遺物：なし。時期：埋土からみて近世以後の溝である。

W-4号溝跡（第6・8図、PL. 2・5）

位置：14区から11区までの25mの間で検出された。重複：B下水田・W-5号溝を切り、W-14号・15号溝には切られている。規模・形態：4a号～4e号まで5条の溝が重複し、東から西へ走る。規模は4a号は上幅1.74m・深さ36cm、4b号は上幅1.62m・深さ44cm、4c号は上幅1.71m・深さ28cm、4d号は上幅1.6m以上・深さ22cm以上、4e号は不明であった。断面形は、4a号・4c号・4d号は皿状、4b号は逆台形である。埋没状態：4a号は埋土全体に、4b号・4c号・4d号は埋土上部にA軽石を含んでいた。遺物：4a号から陶器小片（第24図-1）が出土したほか、13区と14区の4a号・4b号からは、混入品の土師器や陶器小片が少量出土している。時期：埋土の状況から近世以後とみられる。

W-5号溝跡（第5・6・8図、PL. 2）

位置：14区の中央付近で、28mほどの長さで検出された。重複：B下水田面を切り、W-4a号溝には切られている。規模・形態：北から南へ走り、両端は大きく西側へ屈曲する。上幅は1.78m・深さは27cmほどで、断面形は皿状である。埋没状態：埋土中にはA軽石を含む。遺物：埋土中から内耳塙の破片や陶器の小片（第24図-2・3）などが少量出土した。時期：近世以後である。

W-6号溝跡（第6・9図、PL. 2・5）

位置：14区から11区までの26mの間を連続している。重複：B下水田面、W-19号・20号溝を切っている。規模・形態：東から西方向へ走る。東方は上部を削平されている。上幅3.25m・深さは44cmを計り、断面形は皿状である。埋没状態：埋土中にB軽石をやや多く含んでいる。遺物：14区の埋土中から砥石の破片（第24図-4）と土師器小片が出土している。時期：埋土の状況から中世の溝とみられる。

W-7号溝跡（第6・9図、PL. 2・5）

位置：14区から11区までの26mの間を連続している。重複：B下水田面、W-19号・20号溝を切り、W-8号溝に切られている。規模・形態：東から西方向へ走り、上幅3.95m・深さ32cmほどで、断面形は皿状である。埋没状態：埋土中にB軽石をやや多く含んでいる。遺物：11区の埋土中から内耳塙の小片（第24図-5）が出土したほか、11区・14区から混入とみられる土師器・須恵器片が少量出土している。時期：埋土の状況から中世とみられる。

W-8号溝跡（第6・9図、PL. 2）

位置：14区南端で10mの長さが検出された。重複：B下水田・W-7号溝を切り、W-9号溝には切られている。規模・形態：W-7号溝と重複する部分から始まり、南へ走る。上幅2.16m・深さ14cmを計り、皿状の断面である。埋没状態：埋土中にB軽石をやや多く含んでいる。遺物：なし。時期：埋土の状況から中世とみられる。

W-9号溝跡（第6・9図、P.L. 2・5）

位置：12区で約34mの長さで検出された。 重複：B下水田面・W-8号・10号・11号・19号～22号溝を切っている。 規模・形態：3条以上が重複しながら東から西方向へ走る。上幅は9b号が1.6m以上、深さは9a号・9b号とともに60cmほどで、断面形は9a号がU字形、9b号は逆台形とみられる。底面には耕具痕が目立っている。 埋没状態：第III層に由来する埋土が主体である。 遺物：混入とみられる土師器・須恵器小片が数点出土。 時期：近代以後とみられる。

W-10号溝跡（第6・9図、P.L. 2・5）

位置：12区西側部分で検出された。 重複：W-9号溝に切られている。 規模・形態：3条の溝が重複して北から南へ走っている。10c号溝は上幅40cm以上・深さ40cmほどで、断面形はU字形である。 埋没状態：埋土中にA軽石を少量含む。 遺物：なし。 時期：埋土の状況から近世以後とみられる。

W-11号溝跡（第6・9図、P.L. 2・5）

位置：12区西側部分で検出された。 重複：W-9号溝に切られている。 規模・形態：南北方向の走向で、上幅74cm・深さ32cmほど、断面形はU字形である。 埋没状態：埋土上部にA軽石を少量含む。 遺物：なし。 時期：埋土の状況から近世以後とみられる。

W-12号溝跡（第5・6・10図、P.L. 2・5）

位置：13区中央付近で検出された。 重複：B下水田を切り、W-4号溝に切られている。 規模・形態：北から南方向に直線的に走る。上幅70cm・深さ32cmほどで、断面形は逆台形を呈する。 埋没状態：下層にB軽石を多量に含む。 遺物：混入とみられる土師器小片が出土。 時期：埋土の状況から平安末から中世にかけてとみられる。

W-13号溝跡（第5図、P.L. 2・5）

位置：11区から13区にかけての13.5mの間で検出された。 重複：W-18号溝を切り、W-15号・16号溝に切られている。 規模・形態：東から西方向に直線的に走り、11区の東端、W-16号溝との重複部分では鍵の手状に小さく折れ、さらに東へ続いている。上幅は58cm、深さは約50cmで、断面形は逆台形である。 埋没状態：埋土上部にA軽石を含む。 遺物：なし。 時期：埋土の状況から近世以後とみられる。

W-14号溝跡（第5・6・9図、P.L. 2・6）

位置：8区中央付近と、延長部にあたる11区中央付近で検出。 重複：B下水田面とW-4号溝を切っている。 規模・形態：北から南に走るが、11区の部分では大きく東へ屈曲して続いている。上幅約1.18m・深さ50cmで、断面形はU字形である。 埋没状態：埋土中にA軽石をわずかに含む。 遺物：なし。 時期：埋土の状況から近世以後とみられる。

W-15号溝跡（第5・6・9図、P.L. 2・6）

位置：W-14号溝の東側に並行するように、8区と11区で検出された。 重複：B下水田面とW-4号・13号溝を切っている。 規模・形態：北から南の走向で、南側は東へ屈曲している。 埋没状態：埋土全体にA軽石を少量含む。 遺物：内耳壙とみられる小破片（第24図-6）のほか、陶器片（第24図-7）、混入とみられる須恵器片などが少量出土。 時期：埋土の状況から近世以後とみられる。

W-16号溝跡（第5・10図、P.L. 2・6）

位置：8区から11区北半部で検出された。重複：B下水田面とB混土水田面、W-13号・17号溝を切っている。規模・形態：北から南へ向かって36m以上続いている。上幅80cm・深さ52cmほどで、断面形はV字形に近い。埋没状態：上部にA軽石を含む。遺物：混入とみられる土師器片・陶器片がわずかに出土している。時期：埋土の状況から近世以後とみられる。

W-17号溝跡（第5・10図、P.L. 2・5・6）

位置：11区の北側で検出された。重複：W-16号溝に切られている。規模・形態：北側へ張り出した弧状で、南端はW-18号溝と接続している。上幅55cm・深さ8cmほどで、断面形は皿状である。埋没状態：B軽石を多量に含む埋土である。遺物：なし。時期：埋土の状況から平安末頃とみられる。

W-18号溝跡（第5図、P.L. 2・5）

位置：11区北半部で検出された。重複：B混土水田を切り、W-13号溝に切られている。規模・形態：南北に43m以上の長さで検出され、ほぼ直線的に走る。上幅36cm・深さ6cmほどと小規模で、B混土水田の南北畦畔に沿っている。埋没状態：B軽石を多量に含む埋土である。遺物：なし。時期：埋土の状況から平安末頃とみられる。

W-19号溝跡（第6・10図、P.L. 2・6）

位置：11区南半部で検出された。重複：B下水田を切り、W-4号・6号・7号・9号溝に切られている。規模・形態：南北方向に走り、34mほどの長さが検出された。上幅が38cm、深さは20cmで、断面形はU字形である。埋没状態：埋土全体にB軽石を多く含む。遺物：なし。時期：埋土の状況から平安末頃とみられる。

W-20号溝跡（第6・10図、P.L. 2・6）

位置：11区南半部で、W-19号溝と並行するように検出された。重複：B下水田を切り、W-6号・7号・9号溝に切られている。規模・形態：やや屈曲が多く、W-19号溝とほぼ同規模である。埋没状態：埋土全体にB軽石を多く含む。遺物：なし。時期：埋土の状況から平安末から中世とみられる。

W-21号溝跡（第5・6・10図、P.L. 2）

位置：8区と12区で検出された。重複：W-9号溝に切られている。規模・形態：12区の部分では数条の重複があるとみられる。上幅は2.86m、深さは30cmほどで、皿状の断面形を呈する。埋没状態：全体的にB軽石を多く含む埋土である。遺物：なし。時期：埋土の状況から中世とみられる。

W-22溝跡（第5・6・10図、P.L. 2・6）

位置：8区と12区で検出された。重複：W-9号溝に切られ、8区ではW-23d号溝に切られている。規模・形態：上幅2.6m・深さ72cmで、断面は逆台形である。埋没状態：埋土の下部には流砂層が何層か認められ、水路であったとみられる。B軽石をわずかに含む。遺物：なし。時期：中世以後とみられる。

W-23号溝跡（第5・6・10図、P.L. 2・6）

位置：7・12区と8区で検出された。重複：数条の溝が重複しており、8区では23d号がW-22号溝を切っている。23g号は7区でW-25号・28号・29号溝を切っている。規模・形態：23d号は上幅1.2m・深さ1

mほどで、断面形はU字状を呈する。23 e号は上幅1.3m・深さ50cmほどで、断面は幅広のU字状である。23 f号は上幅2.12m・深さ98cmで、断面はU字状に近い形である。23 g号は上幅2.1m以上、深さは80cm以上の規模で、断面形は皿状とみられる。 埋没状態：いずれも理土に少量のB軽石を含む。23 d号・23 e号は下部に流砂層が数層認められ、水路の機能があつたとみられる。23 f号については8区では検出されず、その規模や形態からみてW-27号溝と関連する環濠屋敷跡の西辺部である可能性が強い。 遺物：7区の23 g号から、軟質陶器鉢の小片（第24図-8）、丸瓦片（第25図-9）のほか、混入とみられる須恵器小片などが出土している。

時期：埋土の状況からいざれも中世以後である。

W-24号溝跡（第6・11図、P.L. 2・6）

位置：7区の南端付近で検出された。 重複：W-26号溝を切っている。 規模・形態：L字形に、東から南方向にほぼ直角に屈曲しており、走向も直線的である。上幅72cm・深さ22cmで、断面形はU字状である。走行位置から、W-27号溝と関連する可能性がある。 埋没状態：洪水層に似た理土で、B軽石を含む。 遺物：なし。 時期：埋土の状況から中世以後とみられる。

W-25号溝跡（第6・11図、P.L. 2・6）

位置：7区の南端付近で検出された。 重複：W-23g号溝に切られている。 規模・形態：南北方向に直線的に13mほどの長さまで検出された。上幅74cm・深さ20cmほどで、断面形はU字状を呈する。 埋没状態：下部には流砂層が見られ、水路であったと考えられる。上部には多量のB軽石が混入していた。 遺物：なし。 時期：埋土の状況から平安末から中世にかけてとみられる。

W-26号溝跡（第5・6・11・20図、P.L. 2・6・7・9・15）

位置：7区で検出された。 重複：W-24号・27号・28号・30号・31号・32号溝に切られており、32号溝とは全体的に重複している。 規模・形態：7区内を蛇行気味に北から南へ約100mの長さで縱断している。上幅は1.35m以上、深さ30cmほどの規模で、皿状の断面形を呈する。 埋没状態：A s-Bの降下で直接埋没している。 遺物：混入とみられる土師器壺の破片（第25図-10）や須恵器の小片、土鍤の破片（第25図-11）が少量出土している。 時期：平安時代末期の溝である。

W-27号溝跡（第6・14・17図、P.L. 2・9・12）

位置：7区南側で検出された。延長部がHr-F A層下調査面の5・6区で検出されており併せて後に記す。

W-28号溝跡（第6・11図、P.L. 2・7）

位置：7区南側で検出された。 重複：W-26号・29号溝に切られている。 規模・形態：東西方向に走り、上幅1.4m・深さ53cmで、断面形は逆台形である。 埋没状態：埋土の上部にはA軽石をわずかに含む。 遺物：土師器小片が数点出土している。 時期：埋土の状況から近世以後とみられる。

W-29号溝跡（第6・11図、P.L. 2・7）

位置：7区南側で検出された。 重複：W-23g号・27号・28号溝に切られている。 規模・形態：南北方向に走るが北端は西方へ大きく屈曲している。上幅50cm・深さ20cmほどで、断面形はU字状である。 埋没状態：大半がB混土層で埋没している。 遺物：なし。 時期：平安末から中世とみられる。

W-30号溝跡（第5・12・14・19図、P.L. 2・9・7）

位置：7区北半部から3区南西隅、さらにHr-F A層下調査面の5区にかけて約57mの間で検出された。重複：W-26号・31号・32号溝を切っている。規模・形態：北西から南東方向に走るが、7区から3区にかけての付近では大きく屈曲している。上幅2.08m・深さ64cmほどで、断面形は大きくは皿状であるが、底面の中央が一段深くなっている。埋没状態：埋土中にB軽石をわずかに含んでいる。遺物：3区と5区で土師器・陶器の小片が1点ずつ出土している。時期：埋土の状況から中世以後とみられる。

W-31号溝跡（第5・12図、P.L. 2・7）

位置：7区北半部で検出された。重複：W-26号・32号溝を切り、W-30号溝に切られている。規模・形態：西側では2条の重複が見られる。31a号は上幅78cm・深さ30cmで、断面形はU字状、31b号は上幅2.5m・深さ44cmほどで、皿状の断面形である。埋没状態：31a号は埋土中にA軽石を含んでいる。31b号は下部に流砂層がみられ、水路であったとみられる。上部にはB軽石を多く含んでいる。遺物：なし。時期：埋土の状況から、31a号は近世以後、31b号は中世とみられる。

W-32号溝跡（第5・6・11図、P.L. 2・6・7）

位置：7区で、W-26号溝に沿って検出された。重複：大部分でW-26号溝を切っている。W-27号・28号・30号・31b号溝には切られている。規模・形態：やや屈曲しながら、北から南へ走る。上幅1.27m・深さ46cmほどで、断面形は皿状を呈する。埋没状態：埋土下部に流砂層がみられ、水路である。埋土にはB軽石を少量含んでいる。遺物：混入とみられる土師器壺の破片（第25図-14）のほか、土師器・須恵器の小片が1点ずつ出土している。時期：埋土の状況から中世以後とみられる。

W-33号溝跡（第5・12図、P.L. 1・7）

位置：3区中央付近で検出された。重複：なし。規模・形態：ほぼ東西方向の直線的な走向である。上幅94cm・深さ34cmほどの規模で、断面形は箱型を呈する。埋没状態：埋土の上部にはB軽石が多量に入り、下部はIX層のブロック土とB軽石が混じており、人為的に埋め戻された状況であった。遺物：なし。時期：埋土の状況から中世とみられ、W-35号溝との関係が考えられる。

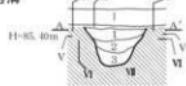
W-34号溝跡（第6・12図、P.L. 1）

位置：6区南側で検出された。Hr-F A層調査面で検出されたW-60号溝に連続するとみられる。重複：なし。規模・形態：縫の手状に屈曲しつつ東西方向に走る。上幅79cm・深さ22cmの規模で、断面形は皿状である。埋没状態：埋土全体にB軽石が見られる。遺物：なし。時期：埋土から中世とみられる。

W-35号溝跡（第6・12・14・20図、P.L. 7）

位置：6区南側から、延長部が5区Hr-F A層調査面にかけて検出された。重複：6区では35b号が重複していた。規模・形態：35a号は、西から東方向に直線的に走り、15mの長さまで検出された。上幅が1.14m・深さ30cm、断面形はU字状である。35b号は上幅58cm・深さは16cmほどであった。埋没状態：35a号は上部はB軽石を多く含む埋土で、下部はF A層のブロックが多量に入り人為的に埋め戻された状況が見られた。遺物：なし。時期：35a号・31b号とも、埋土の状況から中世とみられる。

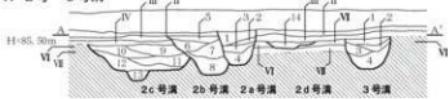
W-1号溝



W-1号溝

- 1 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 少量, A s-A φ 0.2cm 微量含む, 部分少量沈着。
- 2 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 少量含む, 部分少量化。
- 3 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量含む, 部分少量化。

W-2号・3号溝



W-2号溝 (A'-A')

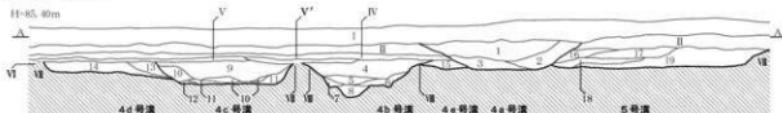
- 2a 号 1 灰黃褐色土 A s-A φ 0.2cm・A s-B φ 0.2cm 少量,
H r-F A輕石 φ 0.5cm微量含む, 部分少量化。
2 に沿う灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 少量, A s-A φ 0.2cm 微量含む。
3 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量含む, 部分沈着有り。
4 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量含む, 部分沈着少量。
5b 号 5 灰黃褐色土 A s-A φ 0.2cm・A s-B φ 0.2cm 少量,
H r-F A輕石 φ 0.5cm・灰化土, 淡土斑状含む。
6 に沿う灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, A s-A φ 0.2cm 微量含む,
鉄分沈着有り。
7 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, A s-A φ 0.2cm 微量含む,
鉄分沈着。
8 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.2cm・
A s-C φ 0.2cm 微量含む, 鉄分比有り。
2c 号 9 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 少量, H r-F A輕石 φ 0.2cm
微量含む, 鉄分の沈着多量。
10 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.2~
0.5cm 少量, 灰化鉄分含む, 鉄分沈着有り。
11 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.2cm
微量含む, 鉄分比有り。
12 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.5cm
微量含む, 鉄分比有り。
13 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.5cm
微量含む, 鉄分少量化。
2d 号 14 に沿う灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.5cm
微量含む, 鉄分少量化。

W-2号溝 (B'-B')

- 2a 号 1 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.5cm 微量含む,
鉄分沈着。
2 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.5cm 少量,
A s-C φ 0.2cm 微量含む。
3 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量, H r-F A輕石 φ 0.2cm・A s-C 0.2cm
微量含む, 鉄分の沈着少量。
2b 号 4 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.5cm, H r-F A
淡土少量化, 鉄分の沈着少量。
5 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量, H r-F A淡土・A s-C φ 0.2cm 少量,
H r-F A輕石 φ 0.2cm 微量含む, 鉄分沈着少量。
2c 号 6 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.2cm 微量含む,
鉄分比有り。
7 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.2cm・A s-C φ 0.2cm
微量含む, 鉄分の沈着多量。
8 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量, A s-C φ 0.2cm 微量含む,
鉄分の沈着少量。
9 噴褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量, H r-F A淡土少量化, H r-F A輕石
φ 0.2cm・A s-C φ 0.2cm 微量含む, 鉄分の沈着少量。
W-3号溝

- 1 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 少量, A s-A φ 0.2cm 微量含む。
- 2 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 少量, A s-A φ 0.2cm,
- H r-F A輕石 φ 0.5cm 微量含む。
- 3 噴褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, A s-A φ 0.2cm 微量含む,
鉄分沈着少量。

W-4号・5号溝



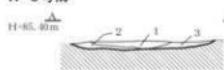
W-4号溝

- 4a 号 1 灰黃褐色土 A s-A φ 0.2cm・A s-B φ 0.2cm 少量, 灰化鉄分微量含む,
A s-B φ 0.2cm 少量, A s-A φ 0.2cm・H r-F A
輕石 φ 0.5cm 微量含む。
- 2 噴灰色土 A s-B φ 0.2cm 中量, A s-A φ 0.2cm 微量含む,
鉄分沈着少量。
- 3 噴灰色土 A s-B φ 0.2cm 中量, A s-A φ 0.2cm 微量含む,
鉄分沈着少量。
- 4b 号 4 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量, A s-A φ 0.2cm・H r-F A輕石
φ 0.1cm 微量含む, 鉄分沈着少量。
- 5 噴灰色土 A s-B φ 0.2cm 多量, A s-A φ 0.2cm・H r-F A輕石
φ 0.2cm 微量含む, 鉄分沈着少量。
- 6 噴灰色土 A s-B φ 0.2cm 多量, H r-F A輕石 φ 0.2cm 微量含む,
鉄分沈着少量。
- 7 噴灰色土 A s-B φ 0.2cm 多量含む, 鉄分比有り少量。
- 8 噴灰色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.2cm・A s-C
φ 0.2cm 微量含む, 鉄分沈着少量。
- 4c 号 9 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量, A s-A φ 0.2cm 微量含む, 鉄分沈着。
- 10 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量含む, 鉄分沈着少量。
- 11 噴灰色土 A s-B φ 0.2cm 中量含む。
- 12 噴灰色土 A s-B φ 0.2cm・H r-F A淡土多量含む。

W-5号溝

- 13 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量, A s-A φ 0.2cm 微量含む,
鉄分沈着少量。
- 14 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量, H r-F A淡土ブロック
φ 0.5~5.0cm 少量含む, 鉄分沈着少量。
- 4e 号 15 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, H r-F A輕石 φ 0.5cm 微量含む,
鉄分沈着。
- 16 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm・A s-A φ 0.2cm 少量含む,
鉄分沈着。
- 17 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量, A s-A φ 0.2cm 微量含む,
鉄分沈着。
- 18 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 少量含む, 鉄分の少量化。
- 19 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, A s-A φ 0.2cm 微量含む,
鉄分沈着少量。

W-5号溝

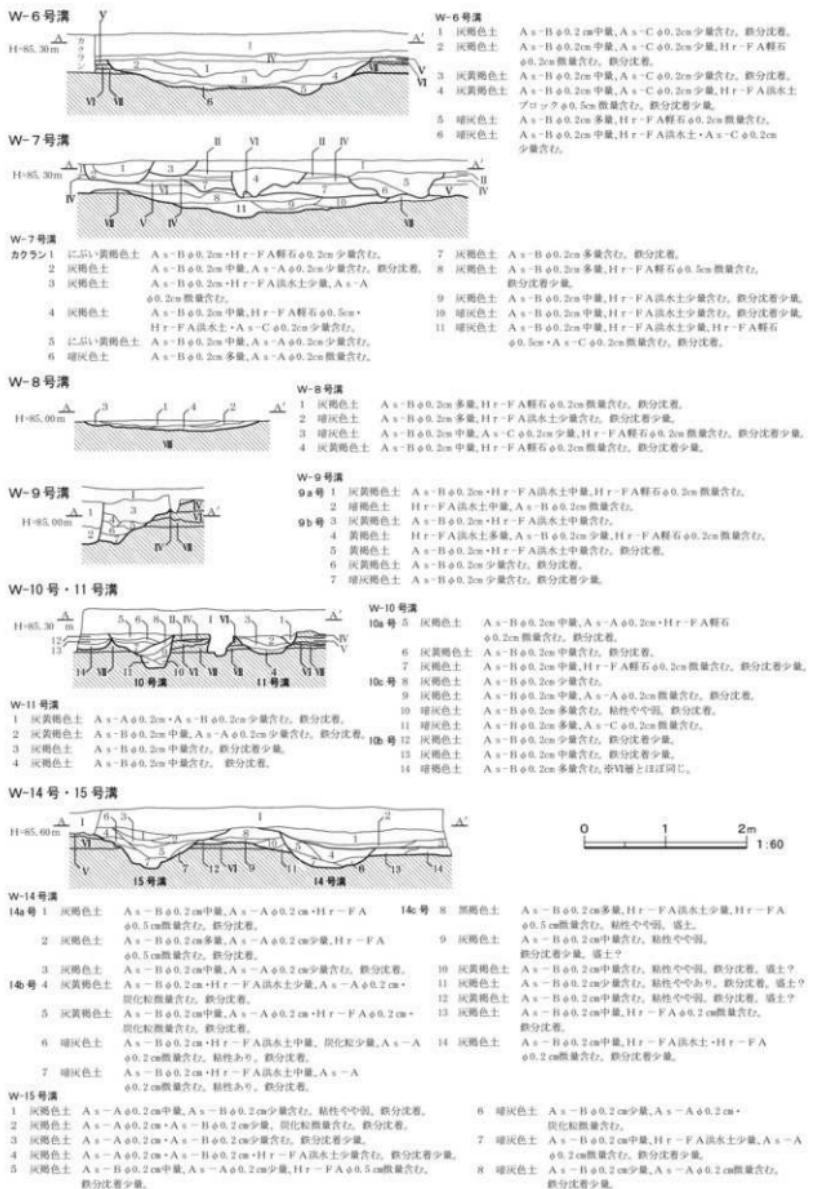


W-5号溝

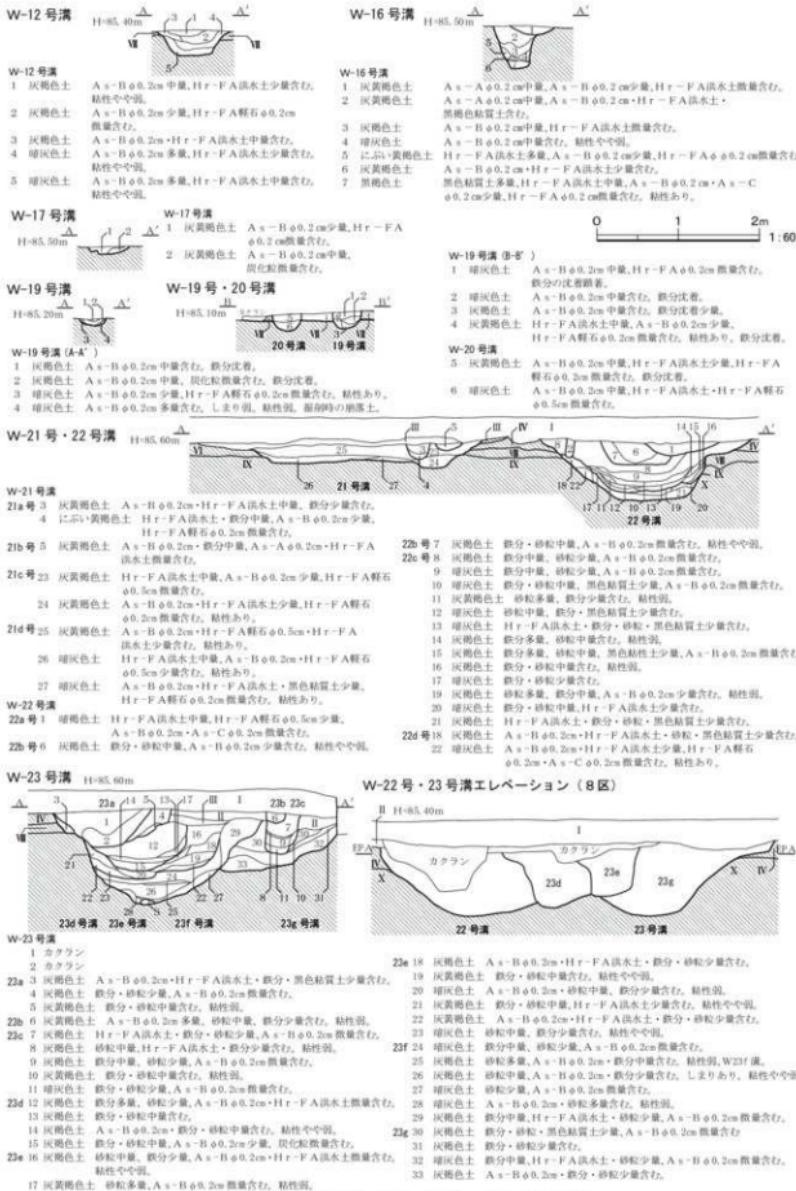
- 1 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, A s-A φ 0.2cm 少量含む, 鉄分沈着。
- 2 灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量, A s-A φ 0.2cm 微量含む, 鉄分少量化。
- 3 噴灰色土 A s-B φ 0.2cm 少量, A s-A φ 0.2cm 微量含む, 鉄分少量化。



第8図 W-1号～5号溝跡

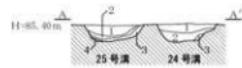


第9図 W-6号～11号・14号・15号溝

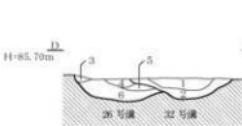


第10図 W-12号・16号・17号、19号～23号溝跡

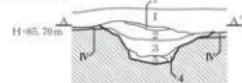
W-24号·25号満



W-26号·32号漢



W-28 号清



W-29号譜



W-24 号溝

- | | | |
|---|-------|---|
| 1 | 灰褐色土 | 鉄分少量。A + B ϕ 0.2cm 微量含む。しまりやや弱。粘性弱。 |
| 2 | 暗灰褐色土 | 鉄分少量。A + B ϕ 0.2cm 微量含む。しまりややあり。粘性弱。 |
| 3 | 暗褐褐色土 | しまり弱。粘性やや弱。 |

W-25 号源

- | | |
|--------|--|
| 1 墩褐色土 | A - B ϕ 0.2cm 多量含む。しまりやや弱。粘性なし。A - B 混土層。 |
| 2 深褐色土 | 砂粒多量含む。しまりややあり。粘性弱。 |
| 3 墩褐色土 | 砂粒多量、A - C ϕ 0.2cm 離散含む。しまりややあり。粘性弱。 |
| 4 褐色土 | H τ - F A 土水層多量含む。しまりややあり。粘性やや弱。 |

W-26号·32号道(A-A')

- カラン
 2 黒褐色土 A_s=B_d=0.2cm・砂粘・鉄分少含む。しまり茎。粘性なし。W-32.
 3 褐色土 A_s=B_d=0.2cm 鉄分含む。しまり茎。粘性なし。W-32.
 4 暗褐色土 A_s=B_d=0.2cm・砂粘・鉄分少含む。しまり茎。粘性なし。W-32.
 5 開闢土 鉄分少含む。しまりや少々。粘性なし。W-32.
 6 暗茶褐色土 鉄分少含む。しまりや少々。粘性なし。W-32.
 7 暗褐色土 A_s=B_d=0.2cm・砂粘・鉄分少含む。しまりや少々。粘性なし。W-32.
 8 砂質褐色土 A_s=B_d=0.2cm 中砂。鉄分少含む。しまりや少々。粘性なし。W-32.
 9 褐鐵色土 しまりや少々。粘性なし。W-32.
 10 開闢土 A_s=B_d=0.2cm 多含む。しまりなし。粘性なし。A_s-B_d一次堆積層。W-26.

W-26号・32号溝(3-5)

- 1 球形胞子菌。A = B + 0.2cm 微少含む。しまりやや弱。粘性なし。W-32。

2 球形胞子菌。
しまりやや弱。粘性弱。W-32。

3 球形菌。A = B + 0.2cm 少少含む。しまり弱。粘性なし。W-32。

4 球形胞子菌。
粘性弱。W-32。

5 球形胞子菌。砂利少量。A = B + 0.2cm 微少含む。しまりややあり。粘性弱。W-32。

6 球形胞子菌。
しまりやや弱。粘性弱。W-32。

7 球形胞子菌。W-26。

8 球形胞子菌。A = B + 0.2cm 少少含む。しまりやや弱。粘性なし。A = B + 0.2cm 微少含む。W-32。

W-26号·32号酒(C-G')

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 褐色土 | 砂粘・粉中量, A-h < B-h < 0.2m 微少含むし, しまりややあり, 粘性弱, W-32, |
| 2 | 灰褐色土 | 粉中量, A-h < B-h < 0.2m 少量含むし, しまりややあり, 粘性弱, W-32, |
| 3 | 暗褐色土 | 砂粘・粉少量, A-h < B-h < 0.2m 微少含むし, しまりやや弱, 粘性なし, W-32, |
| 4 | 灰褐色土 | 砂粘少量含むし, しまりやや弱, 粘性なし, W-32, |
| 5 | 暗褐色土 | 砂粘少量含む, W-32 |
| 6 | 褐色土 | A-h < B-h < 0.2m 多量含むし, しまりなし, 粘性なし, A-h-B-h一次堆積, W-26, |
| 7 | 暗褐色土 | 砂粘中量含むし, しまりなし, 粘性なし, W-26, |

W-26号・32号漢(丁-丁')

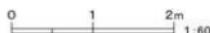
- 1 岩崎褐色土. A = B + Bc 2cm 層厚, D = A + Bc 褐分地盤無し. しまりやや弱く, 繊維性な L-, W-32.
 - 2 亜褐色土. A = B + Bc 2cm, 褐分少含む. しまりやや弱く, 繊維性な L-, W-32.
 - 3 厚革褐色土. A = B + Bc 2cm 中合せ. しまりやや弱く, 繊維性やや弱く, W-32.
 - 4 革褐色土. A = B + Bc 2cm 多合せ. しまりやや弱く, 繊維性やや弱く, W-26.
 - 5 厚革褐色土. A = B + Bc 2cm 中合せ. しまりやや弱く, 繊維性なし. A - B + Bc 土層, W-26.
 - 6 榆樹山土. A = B + Bc 2cm 多合せ. しまりやや弱く, 繊維性なし. A - B + Bc 土層, W-26.

W-26号・32号漢(E-E')

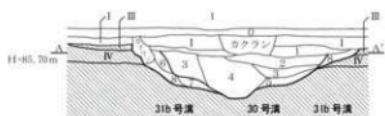
- | W-28号溝 | |
|-----------|---|
| 1 硼酸鈣色土 | $A_s - A_o \leq 0.2cm$ ・ $A_s - B \leq 0.2cm$ ・鉛分微量含む。しまりやや弱。粘性弱。 |
| 2 青褐色土 | 鉛分少、 $A_s - A_o \leq 0.2cm$ ・ $A_s - B \leq 0.2cm$ 鉛分微量含む。しまり弱。粘性弱。 L_w |
| 3 绿褐色色土 | $A_s - B \leq 0.2cm$ ・鉛分微量含む。しまりやや弱。粘性弱。 |
| 4 黄褐色色土 | $H_f - F$ アルカリ土多量。 $A_s - B \leq 0.2cm$ 鉛分微量含む。しまりやや弱。粘性弱。 L_w |
| 5 铁氧化物粗粒土 | 鉛分少、 $A_s - A_o \leq 0.2cm$ ・ $A_s - B \leq 0.2cm$ 鉛分微量含む。 L_w やや弱。粘性弱。 |

385-390

- | 3-2-2 地下部 | 1 黑炭化土色 A = B ϕ 0.2cm・黑色粘質土微含む。しまりやや弱。粘性弱。木根痕。 |
|--|---|
| 2 硼炭化土色 A = B ϕ 0.2cm 中硬。鉄分少強。A = B ϕ 0.2cm・黑色粘質土微含む。しまりやや弱。粘性弱。 | |
| 3 灰褐色土色 A = B ϕ 0.2cm 微含む。しまりやや弱。粘性弱。 | |
| 4 黑炭化土色 A = B ϕ 0.2cm 含む。しまりやや弱。粘性弱。 | |



W-30号・31号溝



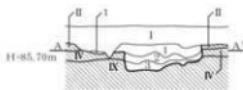
W-30号溝

- 1 淡褐色土
 - 2 黑茶褐色土
 - 3 墓褐色土
 - 4 灰灰褐色土
 - 5 灰褐色土
- H r-F A 淤泥・粉分微量含む。しまりややあり。粘性ややあり。
粉分多量含む。しまりあり。粘性ややあり。
粉分少量、A s-B φ 0.2cm・黑色粘質土微量含む。
しまりややあり。粘性弱。
粉分中量。黑色粘質土少量、A s-B φ 0.2cm微量含む。
しまりややあり。粘性弱。
黑色粘質土中量含む。しまりあり。粘性ややあり。

W-31号溝 (A-A')

- 6 淡褐色土
 - 7 墓褐色土
 - 8 黑茶褐色土
 - 9 灰褐色土
 - 10 灰褐色土
 - 11 灰褐色土
- A s-B φ 0.2cm・H r-F A 軽石微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
黑色粘質土少量、A s-B φ 0.2cm微量含む。しまりあり。粘性ややあり。
黑色粘質土少量、A s-B φ 0.2cm微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
- W-31号溝 (B-B')**
- 1 墓褐色土
 - 2 黑茶褐色土
 - 3 墓褐色土
 - 4 墓褐色土
 - 5 墓褐色土
 - 6 四葉褐色土
 - 7 灰灰褐色土
 - 8 灰褐色土
 - 9 灰褐色土
 - 10 灰褐色土
 - 11 灰褐色土
- A s-B φ 0.2cm・粉分少量、A s-A φ 0.2cm微量含む。しまりややあり。粘性やや弱。
黑色粘質土中量、H r-F A 淤泥土少量、A s-A φ 0.2cm・A s-B φ 0.2cm微量含む。
しまりややあり。粘性やや弱。
A s-B φ 0.2cm・H r-F A 淤泥土、黑色粘質土微量含む。しまり弱。粘性弱。
A s-B φ 0.2cm・H r-F A 淤泥土、粉分微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
A s-B φ 0.2cm・粉分少量、黑色粘質土微量含む。しまり弱。粘性なし。
A s-B φ 0.2cm・粉分少量、粉分微量含む。しまり弱。粘性なし。
A s-B φ 0.2cm・粉分少量、H r-F A 軽石微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
粉分少量、A s-B φ 0.2cm・黑色粘質土微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
粉分多量、粉分微量含む。しまり弱。粘性なし。
粉分中量、A s-B φ 0.2cm微量含む。しまりやや弱。粘性なし。
粉分少量、粉分微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。

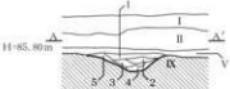
W-33号溝



W-33号溝

- 1 墓褐色土
 - 2 灰褐色土
 - 3 灰黄褐色土
- 粉分多量、A s-B φ 0.2cm 中量含む。しまりやや弱。粘性弱。
A s-B φ 0.2cm 多量含む。しまりやや弱。粘性弱。
A s-B φ 0.2cm 中量含む。しまりやや弱。人为的埋土。

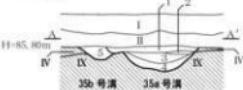
W-34号溝



W-34号溝

- 1 灰褐色土
 - 2 灰褐色土
 - 3 墓褐色土
 - 4 墓褐色土
 - 5 灰褐色土
- A s-B φ 0.2cm・粉分少量、A s-A φ 0.2cm微量含む。しまりややあり。
A s-B φ 0.2cm・粉分少量、A s-A φ 0.2cm微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
H r-F A 淤泥土多量、粉分少量、A s-B φ 0.2cm微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
H r-F A 淤泥土・砂粒少量、A s-B φ 0.2cm・A s-C φ 0.2cm微量含む。しまりあり。
粘性やや弱。W-35a。

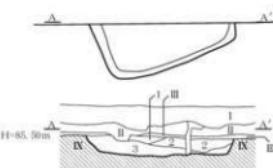
W-35号溝



W-35号溝

- 1 墓褐色土
 - 2 灰褐色土
 - 3 黑褐色土
 - 4 墓褐色土
 - 5 灰褐色土
- 粉分多量、A s-B φ 0.2cm 中量、A s-C φ 0.2cm微量含む。粘性弱。W-35a。
A s-B φ 0.2cm 中量、粉分少量含む。粘性弱。W-35a。
H r-F A 淤泥土多量、A s-B φ 0.2cm 少量、粉分微量含む。しまりあり。粘性やや弱。W-35a。
H r-F A 淤泥土・砂粒少量、A s-B φ 0.2cm・A s-C φ 0.2cm微量含む。しまりあり。
粘性ややあり。W-35a。
- A s-B φ 0.2cm・粉分少量、H r-F A 淤泥土・A s-C φ 0.2cm微量含む。しまりあり。
粘性ややあり。W-35b。

D-1号土坑



D-1号土坑

- 1 墓黄褐色土
 - 2 墓黄褐色土
 - 3 黑褐色土
- A s-B φ 0.2cm・H r-F A 淤泥土中量含む。しまりやや弱。粘性弱。人为的な埋め土？
A s-B φ 0.2cm 多量、H r-F A 淤泥土中量、炭化物少量含む。しまりやや弱。
H r-F A 淤泥土多量、A s-B φ 0.2cm・炭化物少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
人为的な埋め土？

0 1 2m
1:60

第12図 W-30号・31号・33号～35号溝跡、D-1号土坑

3 土坑

D - 1号土坑 (第6・12図、PL. 7)

位置：6区南側で検出された。重複：なし。規模・形態：平面形は南北に長い長方形とみられる。南北1.65m、東西は90cmほどまで検出された。深さは24cmを計る。埋没状態：上部はB軽石を多く含む埋土で、下部はFA層のブロックが多量に入り、人為的に埋め戻されたような状況が見られた。遺物：なし。時期：埋土の状況から中世とみられる。

2 HR - FA層下面の調査

1 HR - FA層下畠跡 (第13・15図、PL. 8・10・11)

位置：1区で検出された。重複：W-36号～39号溝に切られている。地形：他の調査区との標高差はほとんどない。FA層の下部はほぼ平坦なXI層の黒褐色土層で、一部にC軽石の混じるX層の薄い堆積層が残る部分も認められた。区画：調査区南端の擾乱部を除きほぼ全面に検出されたが、中央北寄りの38号溝が重複する部分と、南寄りの39号溝が重複する部分の南側には歓痕が空白の部分が見られた。また、38号溝の北側と南側では微妙に歓の方向が異なっており、これらの部分は畠の境界になる可能性も考えられる。歓痕：南半の歓の走向は、座標北から95°～99°ほど東偏しており、北半の歓は93°～95°の偏りである。埋土はFA洪水土であるが、純層に近いものと黒褐色土のブロックを少量含む新しい時期のものとに区分された。歓の幅は40cm前後で、深さは新しい歓では10cm以上の深いものが多い。歓間の距離はばらつきがあるが、新しいものが35～75cm、古い時期が40～85cmほどを計る。遺物：中央付近の古い歓の底から土師器器台（P1、第25図畠跡出土遺物1）と、甕の破片3点がまとまって出土したほか、各所から土師器の小破片が出土し、弥生土器の破片も出土している（第25図畠跡出土遺物2・3）。

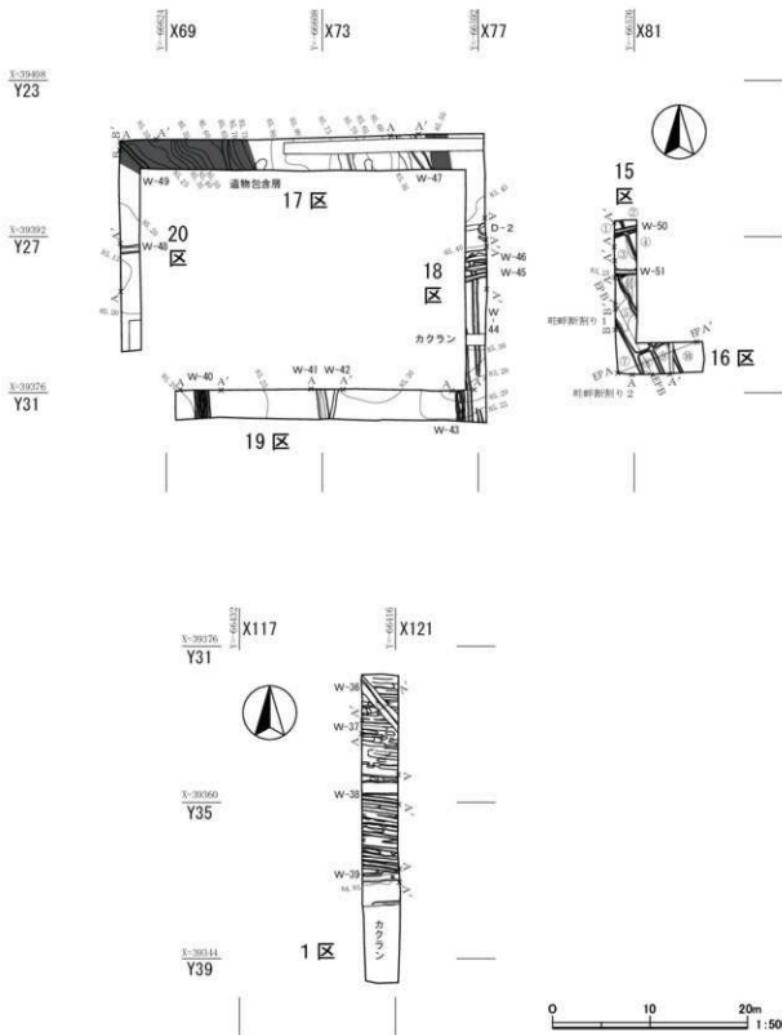
2 HR - FA層下水田跡 (第13・14・16図、PL. 9・10・11・12)

位置：3区、5・6区、7区、15・16区で検出された。重複：5・6区ではW-30号溝に、7区ではW-26号、62号溝に、15・16区でもW-50号・51号溝に切られている。地形：全体的に北東から南西に緩やかに傾斜しており、FA層の堆積が層として認められる地点は少なかったため、水田跡の遺存状況も全体的には良くなかった。しかし、15・16区についてはFA層が10cmほどの厚さに残っており、畦畔全体が埋没して良好に遺存していた。区画：全体が判明したものは少ないが、推定も含めて2.3m²から7.8m²ほどの面積で、いわゆる極小区画水田である。区画の設定はいずれも南北軸の畦畔を基準になされているようで、南北の軸線は座標北に対して最少で3度から最大30度の角度で西偏するが、その中でも20～25度の傾きが大部分である。南北軸の間は2m前後の間隔で、区画の平面形は南北方向に長い長方形が主である。水田面には特に目立った耕具痕や足跡などは認められなかった。畦畔：15・16区で良好に残り、最高部は南北畦畔の9.2cm、下端の最大幅が南北畦畔の60cmであり、総じて南北畦畔の規模が大きい。水田面と畦畔は、C軽石混じりで鉄分の沈着した灰色気味の黒褐色土層であった。水口：検出されなかった。遺物：なし。

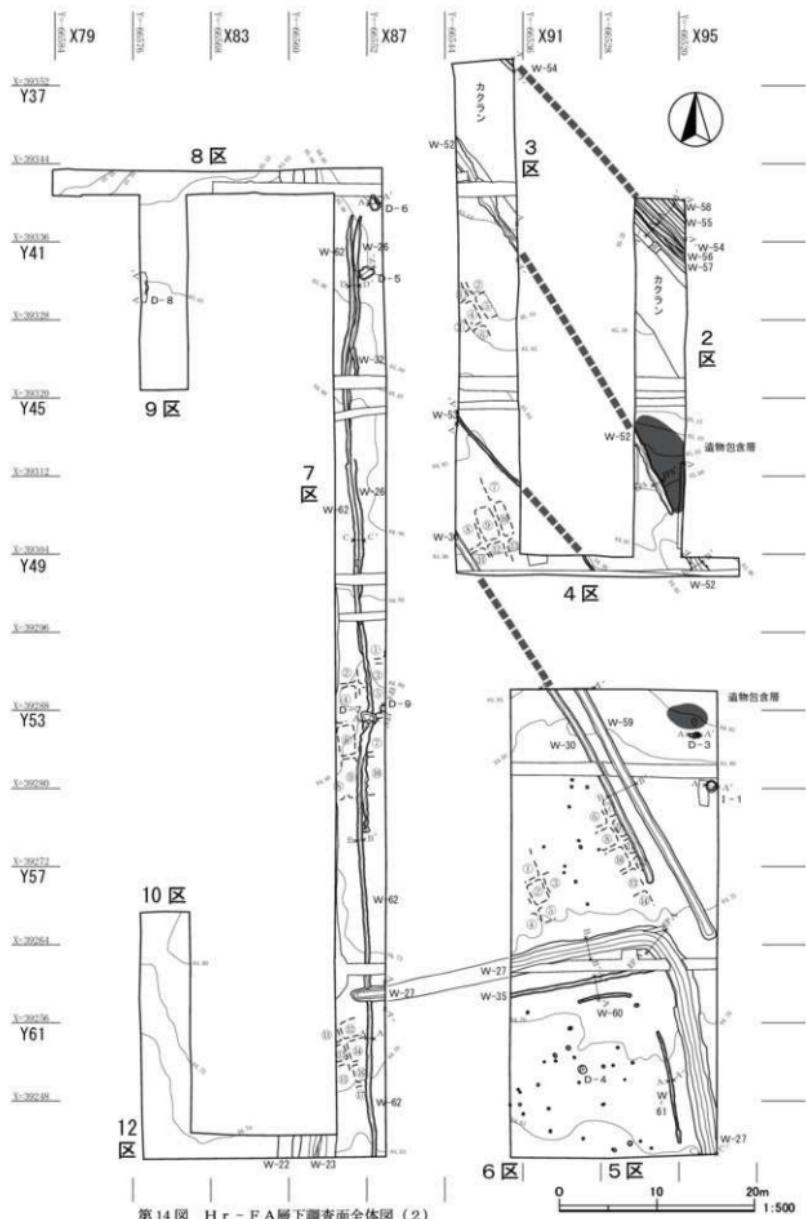
3 溝跡

W-27号溝跡 (環濠屋敷跡) (第6・14・17図、PL. 2・9・12)

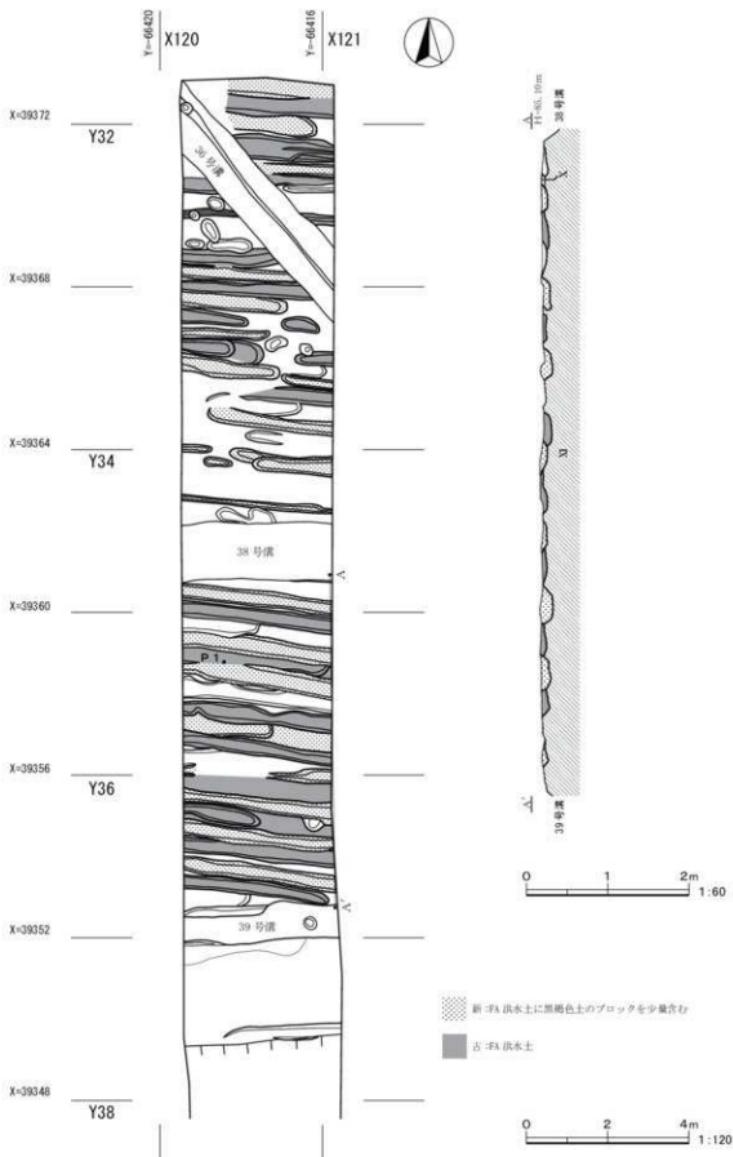
位置：5・6区南半、及び7区南側のA-s-B層下調査面で検出された。重複：W-26号・29号・62号溝を切っている。規模・形態：環濠屋敷跡の一部とみられ、7区の西端部から5区の東端付近まで続き、南にはほぼ直角に折れて調査区外へ続いている。北辺部の長さが約34m、東辺部は22mまで、延長56mほどが検出され



第13図 Hr - FA層下調査面全体図(1)

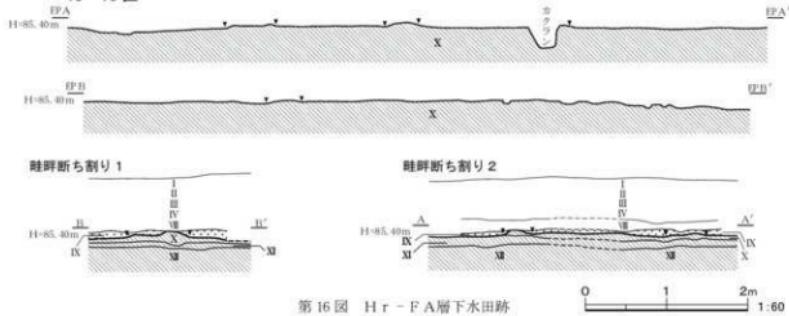


第14図 Hr-Fa層下調査面全体図(2)



第15図 H r - F A層下島跡

15・16 区



第16図 H r - F A層下水田跡

第3表 H r - F A層下水田跡区画計測表

面積は畦畔下端緯の範囲、面積比率は第一区画内の最大値。畦畔高は仰面と傾斜の比高を示す。
南北畦畔上端面の西側に、東西畦畔は以西に位置するものを指す。()は推定又は残存値。

調査区	区画番号	面積 (m ²)	南北幅 (m)	東西幅 (m)	面面中央 標高(m)	田面高 (cm)	南北畦畔高 (cm)	南北畦畔 上端幅(cm)	東西畦畔高 (cm)	東西畦畔 上端幅(cm)	東西畦畔 下端幅(cm)	備考
3	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	②	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	④	2.8	2.77	1.45	85.0	—	—	—	(43~48)	—	—	(35~46)
3	⑤	—	2.90	—	(85.1)	—	—	—	43~63	—	—	(33~40)
3	⑥	—	—	(1.68)	—	—	—	—	—	—	—	36~41
3	⑦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	⑧	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	⑨	5.6	3.80	2.06	84.9	—	—	—	(32~32)	—	—	—
3	⑩	3.6	3.93	1.37	84.9	—	—	—	(39~59)	—	—	—
3	⑪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(30~48)
3	⑫	—	—	1.95	—	—	—	—	(24~30)	—	—	40~47
3	⑬	—	—	—	—	—	—	—	(28~50)	—	—	(42~50)
5+6	①	—	—	(2.10)	—	—	—	—	—	—	—	—
5+6	②	6.9	2.59	2.01	84.7	—	—	—	(36~40)	—	—	36~42
5+6	③	—	—	—	—	—	—	—	(28~34)	—	—	—
5+6	④	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5+6	⑤	(2.3)	(2.00)	(1.90)	—	—	—	—	(32~36)	—	—	(42~44)
5+6	⑥	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5+6	⑦	—	2.34	—	—	—	—	—	(29~40)	—	—	—
5+6	⑧	(3.2)	(2.33)	(1.90)	84.7	—	—	—	—	—	—	(43~50)
5+6	⑨	—	2.37	—	—	—	—	—	(33~40)	—	—	—
5+6	⑩	(3.7)	(2.64)	(2.15)	84.7	—	—	—	—	—	—	(35~45)
5+6	⑪	—	2.00	—	—	—	—	—	(37~42)	—	—	—
5+6	⑫	—	1.93	—	—	—	—	—	(36~50)	—	—	—
5+6	⑬	—	—	—	(84.7)	—	—	—	—	—	—	(35~41)
5+6	⑭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	②	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	③	—	—	—	—	—	—	—	(35~36)	—	—	—
7	④	(7.7)	(3.87)	(2.66)	84.8	—	—	—	—	—	—	(34~47)
7	⑤	—	—	—	—	—	—	—	(37~40)	—	—	—
7	⑥	4.9	3.42	2.05	84.8	—	—	—	—	—	—	(40~42)
7	⑦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	⑧	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	⑨	(5.9)	(4.33)	(1.98)	84.8	—	—	—	—	—	—	35~43
7	⑩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(42~48)
7	⑪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	⑫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	⑬	—	—	(2.03)	—	(84.7)	—	—	32~34	—	—	—
7	⑭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(33~38)
7	⑮	—	—	(2.45)	—	84.70	—	—	31~38	—	—	(33~43)
7	⑯	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(42~51)
7	⑰	—	—	(2.19)	—	—	—	—	(35~37)	—	—	—
7	⑱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15+16	①	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15+16	②	—	—	—	—	—	(2.8)	(6~19)	(29~41)	—	—	—
15+16	③	(7.8)	(4.10)	(2.54)	85.3	—	(5.7)	(6~14)	(31)	(4.9)	(4~13)	(24~31)
15+16	④	—	—	—	—	—	(6.7)	(4~10)	(33~36)	(4.4)	(6~19)	(26~30)
15+16	⑤	—	—	—	—	—	(6.3)	(13~25)	(35~90)	(7~12)	(25)	—
15+16	⑥	—	—	7.94	—	—	(9.2)	(7~21)	(31~45)	(6.8)	(7~12)	(24~28)
15+16	⑦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15+16	⑧	—	—	1.97	—	—	(2.1)	(18~27)	(41~60)	3.8	12~18	34~40
15+16	⑨	—	—	1.88	—	—	(4.5)	(19~26)	(42~50)	3.5	(14~26)	(35~46)
15+16	⑩	—	—	—	—	—	(3.4)	(13~23)	(35~42)	—	—	—

た。7区の最大部分での規模は、上幅2.5m・深さ80cmで、断面形は幅広のV字形を呈する。西端部は溝が切れており、土橋状の通路部であったと考えられる。西辺部にあたる溝は明確にはならなかったが、W-23 f号溝が位置や規模からみて該当すると考えられる。この場合、溝内側の東西距離は38m前後となる。区画内部ではピットがいくつか検出されたが、建物や柵跡などは明確にならなかった。なお、W-60号・61号溝は27号溝の区画内に沿うように走っており、屋敷内の施設であった可能性がある。また、北東隅部から北へ14mほど離れてI-1号井戸が検出されており、環濠の外側になるがやはり関連するものとみられる。**埋没状態**：溝の埋土中には全体的にB軽石を多く含んでいた。**遺物**：東辺部から軟質陶器鉢の小片、北辺部から砥石片（第25図-12・13）が出土したほか、土師器片・陶器片が少量出土している。**時期**：埋土の状況から中世とみられる。

W-36号溝跡（第13・17図、P.L. 8・10・13）

位置：1区の北側で検出された。**重複**：2条が並行し、36a号が36b号を切り、両溝ともFA層埋没の畠跡を切っている。**規模・形態**：北西～南東の走向で、36a号は上幅54cm・深さ14cmで、断面形はU字状である。36b号は上幅60cm以上で、深さは12cm、断面形は皿状を呈する。**埋没状態**：36a号は底に流砂層が堆積しており水路とみられ、FA洪水土も多量に含む。36b号はFA洪水土に黒色粘質土を含む埋土であった。**遺物**：36b号の肩部から、土師器壺の破片が出土しているほか、土師器小片が数点出土している。**時期**：埋土の状況から、両溝とも古墳後期とみられる。

W-37号溝跡（第13・17図、P.L. 8・13）

位置：1区の北側で検出された。**重複**：W-36号溝とFA下畠跡を切っている。**規模・形態**：東西方向に走り、上幅68cm・深さ7cmで、皿状の断面形である。**埋没状態**：埋土中にわずかにB軽石を含んでいる。**遺物**：混入の古墳後期の土師器壺の小片が出土している。**時期**：埋土の状況から中世以降とみられる。

W-38号溝跡（第13・17図、P.L. 8）

位置：1区の中央付近で検出された。**重複**：FA下畠跡を切っている。**規模・形態**：東西の走向で、上幅は1.58m・深さ54cmほど、断面形は箱型である。**埋没状態**：埋土上部にはA軽石をわずかに含む。**遺物**：混入とみられる土師器破片数点のほか、釘状の鉄製品が出土。**時期**：近代以後とみられる。

W-39号溝跡（第13・17図、P.L. 8・13）

位置：1区の南半側で検出された。**重複**：FA下畠跡を切っている。**規模・形態**：東から西に走り、上幅は78cm、深さは16cmを計る。断面形は箱型を呈し、底面には凹凸が目立つ。**埋没状態**：IX層のFAブロックとX層の黒褐色土のブロックの混じった埋土で、人為的に埋め戻されたとみられる。**遺物**：なし。**時期**：埋土の状況から古墳後期頃とみられる。

W-40号溝跡（第13・17図、P.L. 10・13）

位置：19区の西側で検出された。**重複**：なし。**規模・形態**：南北方向に走る。断面形は二段の箱型のような形態で、重複の可能性がある。上部の規模は、上幅3.44m、深さは55cmと大規模で、下部は上幅1.7m・深さ25cmほどである。底面は耕具の痕跡が目立つ。**埋没状態**：B軽石を少量含む埋土であった。**遺物**：なし。**時期**：埋土の状況から中世以降とみられる。

W-41号溝跡（第13・17図、P L . 10・13）

位置：19区中央部で検出された。重複：なし。規模・形態：南北方向の走向で、上幅1.85m・深さ58cmを計り、断面形はU字状である。埋没状態：埋土中にはA及びB軽石を少量含む。遺物：なし。時期：埋土の状況から近世以降とみられる。

W-42号溝跡（第13・17図、P L . 10・13）

位置：19区中央部で検出された。重複：なし。規模・形態：南北方向の走向で、上幅40cm・深さ14cmを計る。埋没状態：埋土は、IX'層に似たFA粒の混じる灰褐色粘質土である。遺物：なし。時期：埋土の状況から、奈良時代頃とみられる。

W-43号溝跡（第13・18図、P L . 10）

位置：19区東側から18区にかけて検出された。重複：なし。規模・形態：南北方向に走り、上幅1.8m以上、深さが52cmほどである。断面形は箱型状で、底面には耕具痕が目立つ。走向方向や規模・形態からみて14区W-2号溝に連続する可能性が高い。埋没状態：埋土中にはB軽石を少量含む。遺物：なし。時期：埋土の状況から中世以降とみられる。

W-44号溝跡（第13図、P L . 10）

位置：18区南半で検出された。重複：W-45号・46号溝に切られている。規模・形態：北から南方向に走り、17m以上の長さが検出された。上幅58cm・深さ35cmほどの規模で、断面はU字状である。埋没状態：B軽石を多量に含む埋土であった。遺物：なし。時期：埋土から平安時代末から中世とみられる。

W-45号溝跡（第13・18図、P L . 10・13）

位置：18区中央部で検出された。重複：W-44号溝を切っている。規模・形態：東西方向の走向で、上幅70cm・深さ43cmを計る。断面形はU字状である。走向や形態から、15区W-51号溝と連続するとみられる。埋没状態：埋土全体にやや多くB軽石を含んでいる。遺物：なし。時期：中世とみられる。

W-46号溝跡（第13・18図、P L . 10・14）

位置：18区中央部で検出された。重複：W-44号溝を切っている。規模・形態：東西方向の走向で、上幅2.22m・深さ42cmを計る。断面形は箱型で、底面中央付近は一段深くなる。底面には耕具痕の凹凸が目立つ。走向や形態から、15区W-50号溝と連続するとみられる。埋没状態：埋土全体にB軽石を少量含んでいる。遺物：なし。時期：埋土の状況から中世以降とみられる。

W-47号溝跡（第13・18図、P L . 10）

位置：17区東側で検出された。重複：なし。規模・形態：北西から南東方向に走る。上幅2.16m・深さ38cmの規模で、断面形は皿状を呈する。埋没状態：埋土の上部にA軽石を少量含んでいる。遺物：なし。時期：埋土の状況から近世以降とみられる。

W-48号溝跡（第13・18図、P L . 10）

位置：20区中央部で検出された。重複：なし。規模・形態：東西方向の走向で、上幅が1.25m・深さ25cmの規模で、断面形は皿状を呈する。埋没状態：埋土中にはB軽石を少量含んでいる。遺物：混入とみられる

土師器高坏と坏の小片が出土している。 時期：埋土の状況から中世以降とみられる。

W-49号溝跡（第13・18図、P.L. 10・14）

位置：17区と20区の境で検出された。 重複：なし。 規模・形態：北東の微高地から南西側の緩傾斜地に変換する地点を、北西から南東方向に走っている。規模は上幅52cm、深さ14cmで、断面形はU字状である。 埋没状態：H r - F A層が直接全体を覆っており、さらに上部にも厚く堆積していた。 遺物：なし。 時期：古墳後期である。

W-50号溝跡（第13・18図、P.L. 10・14）

位置：15区の北辺部で検出された。 重複：F A埋没の水田跡を切っている。 規模・形態：東西方向に走る。検出面がIX層であったため小規模に見えるが、本来は上幅2.02m・深さ52cmほどある。断面形は箱型の底面中央に一段深く溝が走る形である。形態や規模などから、W-46号溝と連続するものとみられる。 埋没状態：最上部にA軽石を含む埋土である。 遺物：なし。 時期：埋土から近世以降とみられる。

W-51号溝跡（第13・18図、P.L. 10・14）

位置：15区の北側で検出された。 重複：F A埋没の水田跡を切っている。 規模・形態：東西方向に走り、上幅は85cm、深さは50cmほどで、断面形はU字状である。走向や規模・形態から、W-45号溝と連続するとみられる。 埋没状態：埋土全体にB軽石を含んでいる。 遺物：なし。 時期：中世とみられる。

W-52号溝跡（第14・19図、P.L. 9・14）

位置：3区北半部から、2区南半部、4区東端付近にかけて51mの間で検出された。 重複：なし。 規模・形態：北西から南東方向に走る。北東側がX層の地形が高くなっている。北西側の緩傾斜面に移行する変換点を走っている。形状は不整形であるが走行はほぼ直線的である。最大規模は、上幅1.4m、深さ14cmで、断面形も不整な深い皿状である。 埋没状態：H r - F A層で直接埋没しており、さらに上部にもその堆積が見られた。 遺物：なし。 時期：古墳後期である。

W-53号溝跡（第14・19図、P.L. 9・14）

位置：3区南半から4区中央付近にかけて、21mの間で検出された。 重複：なし。 規模・形態：北西から南東方向に走る。規模は上幅35cm・深さ16cmで、断面形はU字状である。 埋没状態：埋土はF A粒をわずかに含む暗灰褐色土であった。 遺物：なし。 時期：埋土の状況から奈良時代頃とみられる。

W-54号溝跡（第14・19図、P.L. 9・14・15）

位置：3区北端部から2区の北辺にかけて26mの間で検出された。 重複：W-56号溝に切られている。 規模・形態：北西～南東の走向で、規模は上幅68cm・深さ38cmである。断面は逆台形を呈する。 埋没状態：埋土中にA軽石を含む。 遺物：混入とみられる土師器小型壺の破片（第25図-15）が埋土上部から出土したほか、高坏据部の小片が出土している。 時期：埋土の状況から近世以降とみられる。

W-55号溝跡（第14・19図、P.L. 9・14）

位置：2区北辺部分で検出された。 重複：W-58号溝を切っている。 規模・形態：北西から南東に走り、規模は上幅56cm・深さ38cmで、断面形は逆台形である。 埋没状態：埋土の上部にはA軽石を少量含んでいる。

下部には水成の堆積層が認められ、水路とみられる。 遺物：なし。 時期：近世以後とみられる。

W-56号溝跡（第14・19図、P.L. 9・14・15）

位置：2区北辺部分で検出された。 重複：W-54号・57号溝を切っている。 規模・形態：北西～南東の走向で、上幅は60cmほどあったとみられ、深さは44cmを計る。断面形は皿状部の底がU字状に二段掘りになり、重複の可能性もある。 埋没状態：埋土上部にA軽石を少量含んでいる。 遺物：最上層から馬の頭骨が出土したほか、混入とみられる土師器の破片数点が出土している。 時期：近世以後とみられる。

W-57号溝跡（第14・19図、P.L. 9・14・15）

位置：2区北辺部分で検出された。 重複：W-56号溝に切られている。 規模・形態：北西～南東の走向で、上幅は70cmほど、深さは36cmを計る。断面形はU字状である。中央部で南側へ直角に伸びる枝溝が検出され、内部には人頭大ほどの礫が2点落ち込んでいた。枝溝の先は大規模な擾乱で失われていた。 埋没状態：埋土の最下層はF A洪水土で、途中にも多量に含まれている。 遺物：埋土中から土師器鉢の破片（第25図-16）と、高环脚部の小片が出土している。 時期：埋土の状況から古墳後期とみられる。

W-58号溝跡（第14・19図、P.L. 9・14）

位置：2区北端部で検出された。 重複：W-55号溝に切られている。 規模・形態：北西～南東方向の走向で、一部分のみの検出のため本来の規模は不明である。検出部分からは、上幅が1m以上・深さ50cm以上の規模であることが知られた。 埋没状態：F A洪水層で直接覆われている。 遺物：なし。 時期：古墳後期である。

W-59号溝跡（第14・19図、P.L. 9・12）

位置：5区の北半で検出された。 重複：F A下水田跡を切っている。 規模・形態：北西から南東方向に直線的に走る。最大部で上幅が2.2m、深さは72cmの規模で、断面形は皿状である。 埋没状態：底面上には互層状に流砂層がみられ、水路であったとみられる。埋土上部にはB軽石を多量に含んでいる。 遺物：なし。 時期：埋土の状況から中世とみられる。

W-60号溝跡（第14・20図、P.L. 9・15）

位置：5区南半付近で検出された。 重複：なし。 規模・形態：東西方向にやや弧状に走る。走向からみて、6区B下調査面で検出されたW-34号溝の連続部分とみられる。また、同形・同規模のW-61号溝とも関連があるとみられる。規模は、上幅40cmで、深さは3cmほどの残存状況であった。断面形は皿状である。 埋没状態：底面付近のみであるが、B軽石が多量に見られる。 遺物：なし。 時期：中世とみられる。

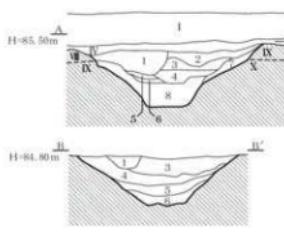
W-61号溝跡（第14・20図、P.L. 9・15）

位置：5区南側で検出された。 重複：なし。 規模・形態：南北方向の走向で、W-27号溝の東辺と並行する。規模は上幅40cm・深さ7cmほどで、断面形は皿状に近い。 埋没状態：W-60号溝と同じで、B軽石が多量に含まれる。 遺物：なし。 時期：中世とみられる。

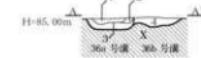
W-62号溝跡（第14・20図、P.L. 9・15）

位置：7区を南北に縦断するように96.5mの距離で検出された。 重複：W-26号溝がほぼ全体に重複し、W-27号溝、D-7号土坑にも切られている。 規模・形態：北から南方向に走る。北端部は掘削が深過ぎたため

W-27 号溝



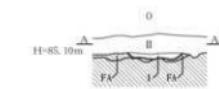
W-36 号溝



W-36 号溝

- 1 岩褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$ 中量, $H r - F A$ 淹水土少量含む。しまりややあり。粘性弱。
- 2 岩褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$, 砂中に微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 3 墓園褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$ 多量, $H r - F A$ 淹水土中量, $A \times C \phi 0.2cm$ 微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 4 墓園褐色土 $H r - F A$ 淹水土多量, 砂分少量, $A \times B \phi 0.2cm$ 微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 5 灰褐色土 $H r - F A$ 淹水土多量, 砂分多量, $A \times B \phi 0.2cm$ 微量含む。しまり強。粘性やや弱。
- 6 墓園褐色土 $H r - F A$ 淹水土多量, 砂分少量, $A \times B \phi 0.2cm$ 微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。

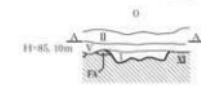
W-37 号溝



W-37 号溝

- 1 墓園褐色土 $H r - F A$ 淹水土中量, $A \times B \phi 0.2cm$ 。
 $H r - F A$ 軽石微量含む。しまりややあり。粘性弱。

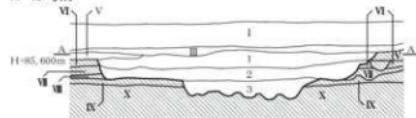
W-39 号溝



W-39 号溝

- 1 墓園褐色土 $H r - F A$ 淹水土ブロック・黒色粘質土多量, $A \times C \phi 0.2cm$ 中量含む。
しまり弱。粘性弱。人為的埋め戻し?

W-40 号溝



W-41 号溝

- 1 墓園褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$ ・粒分少量, $A \times A \phi 0.2cm$ 微量含む。しまりやや。
粘性やや。
- 2 岩褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$ ・粒分中量含む。しまりやや。粘性やや弱。
- 3 岩褐色土 粒分少量, $A \times A \phi 0.2cm$ ・ $A \times B \phi 0.2cm$ ・ $A \times C \phi 0.2cm$ ・
黑色粘質土微量含む。しまりやや弱。粘性やや。
- 4 墓園褐色土 黑色粘質土中量, $A \times B \phi 0.2cm$ ・ $H r - F A$ 軽石微量含む。
しまりやや。粘性やや。
- 5 灰褐色土 $H r - F A$ 淹水土少量, $A \times B \phi 0.2cm$ ・黑色粘質土微量含む。
しまりやや。粘性やや。

W-42 号溝

- 1 墓園褐色土 $H r - F A$ 淹水土少量, $A \times C \phi 0.2cm$ ・黑色粘質土微量含む。しまりあり。
粘性やや。

W-27 号溝

- 1 岩褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$ 中量, $A \times A \phi 0.2cm$ ・粒分少量含む。しまり弱。粘性弱。
- 2 灰黃褐色土 粒分中量, $A \times A \phi 0.2cm$ ・ $A \times B \phi 0.2cm$ 少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 3 墓園褐色土 $H r - F A$ 淹水土中量, $A \times B \phi 0.2cm$ 少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 4 墓園褐色土 粒分多量, $A \times B \phi 0.2cm$ 少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 5 灰褐褐色土 $H r - F A$ 淹水土多量, 砂分少量, $A \times B \phi 0.2cm$ 微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 6 墓園褐色土 粒分多量, $A \times B \phi 0.2cm$ 微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 7 灰褐色土 粒分中量, $A \times B \phi 0.2cm$ 微量含む。しまり強。粘性やや弱。
- 8 灰褐色土 粒分少量, $A \times A \phi 0.2cm$ ・ $A \times B \phi 0.2cm$ 微量含む。しまりやや弱。粘性弱。

W-27 号溝 (B-B')

- 1 岩褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$ 中量, $H r - F A$ 淹水土少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 2 岩褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$, 砂中に微量含む。しまりやや弱。粘性なし。
- 3 墓園褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$ 少量, $A \times C \phi 0.2cm$ 微量含む。しまり・粘性やや弱。
- 4 墓園褐色土 $H r - F A$ 淹水土多量, 砂分中量, $H r - F A$ 淹水土, $A \times C \phi 0.2cm$ ・
黑色粘質土微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 5 灰褐色土 粒分少量含む。しまりやや。物理強。
- 6 墓園褐色土 粒分中量, $A \times B \phi 0.2cm$ 微量含む。しまり・粘性強。

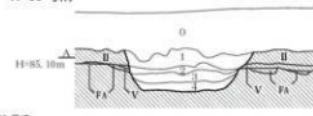
W-27 号溝 (C-C')

- 1 岩褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$ 中量, $H r - F A$ 淹水土少量含む。しまりやや弱。粘性弱。

W-36 号溝 (B-B')

- 1 岩褐色土 $H r - F A$ 淹水土・砂中に微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 2 岩褐色土 $H r - F A$ 淹水土・砂中に微量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 3 墓園褐色土 砂分多量, $H r - F A$ 淹水土中量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
- 4 岩褐色土 $H r - F A$ 淹水土多量, 黑色粘質土中量, $H r - F A$ 軽石少量含む。しまりやや弱。粘性弱。

W-36 号溝



W-38 号溝

- 1 黑色粘質土多量, $H r - F A$ 淹水土中量, $A \times A \phi 0.2cm$ ・ $A \times B \phi 0.2cm$ ・
 $A \times C \phi 0.2cm$ 微量含む。しまりあり。粘性弱。
- 2 黑色粘質土 $A \times C \phi 0.2cm$ 多量, $H r - F A$ 軽石少量, $A \times A \phi 0.2cm$ ・粒分微量含む。
しまりやや弱。粘性やや弱。

W-38 号溝

- 3 黑色粘質土中量, $A \times A \phi 0.2cm$ 中量, $H r - F A$ 軽石少量含む。しまりやや弱。粘性弱。

W-38 号溝

- 4 墓園褐色土 $H r - F A$ 軽石・ $A \times C \phi 0.2cm$ 少量含む。しまり弱。粘性弱。

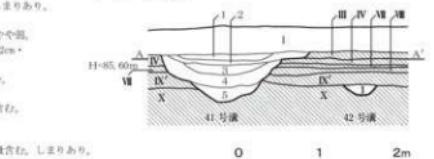
W-39 号溝

- 1 墓園褐色土 $H r - F A$ 淹水土ブロック・黑色粘質土多量, $A \times C \phi 0.2cm$ 中量含む。
しまり弱。粘性弱。人為的埋め戻し?

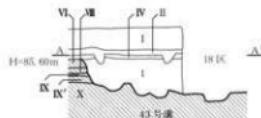
W-40 号溝

- 1 墓園褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$ ・黑色粘質土・粒分少量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 2 岩褐色土 $A \times B \phi 0.2cm$ ・粒分中量含む。しまりやや弱。粘性弱。
- 3 墓園褐色土 $H r - F A$ 淹水土中量, $A \times B \phi 0.2cm$ ・黑色粘質土・
粒分少量含む。しまりあり。粘性弱。

W-41・42 号溝



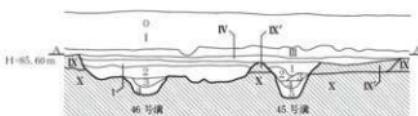
W-43 号溝



W-43 号溝

1 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量。黑色粘質土・鉄分少量、H r-F A 深水土・A s-C φ 0.2cm・砂分無量含む。しまりややあり。粘性やや弱。

W-45・46 号溝



W-45 号溝

1 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm+H r-F A 深水土中量。A s-C φ 0.2cm・黑色粘質土・鉄分無量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。

2 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量、H r-F A 深水土少量含む。しまり弱。粘性なし。

3 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量、H r-F A 深水土少量含む。しまり弱。粘性弱。

4 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm+H r-F A 深水土無量含む。しまりややあり。粘性やや弱。

5 灰褐茶褐色土 H r-F A 深水土・鉄分少量、A s-B φ 0.2cm・A s-C φ 0.2cm・砂分無量含む。しまりあり。粘性あり。

W-46 号溝

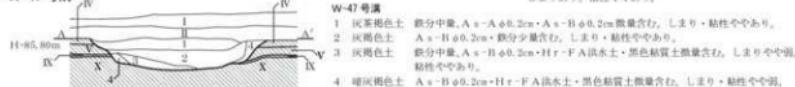
1 灰褐色土 鉄分中量、A s-B φ 0.2cm 少量、H r-F A 深水土無量含む。しまりややあり。粘性あり。

2 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm+H r-F A 深水土・黑色粘質土無量含む。しまりあり。粘性あり。

3 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量、H r-F A 深水土・A s-C φ 0.2cm・無量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。

4 灰褐色土 H r-F A 深水土少量、A s-B φ 0.2cm 無量含む。しまりあり。粘性やや弱。

W-47 号溝



W-47 号溝

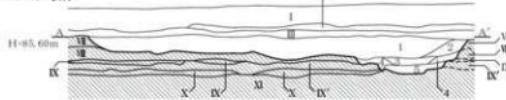
1 灰茶褐色土 鉄分中量、A s-A φ 0.2cm・A s-B φ 0.2cm 無量含む。しまり・粘性ややあり。

2 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm・鉄分少量含む。しまり・粘性やや弱。

3 灰褐色土 鉄分中量、A s-A φ 0.2cm+H r-F A 深水土・黑色粘質土無量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。

4 灰褐茶褐色土 A s-B φ 0.2cm+H r-F A 深水土・黑色粘質土無量含む。しまり・粘性やや弱。

W-48 号溝



W-48 号溝

1 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm・鉄分少量、黑色粘質土無量含む。しまり・粘性やや弱。

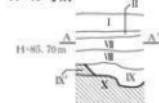
2 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量、H r-F A 深水土無量含む。しまりやや弱。粘性なし。

3 灰灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm 少量、H r-F A 深水土・黑色粘質土無量含む。しまり・粘性やや弱。

4 灰茶褐色土 H r-F A 深水土中量、A s-B φ 0.2cm 無量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。

5 灰灰褐色土 H r-F A 深水土中量、A s-B φ 0.2cm 微量含む。しまり・粘性やや弱。

W-49 号溝



W-49 号溝

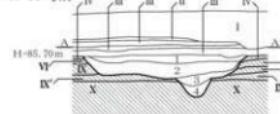
1 灰褐色土 H r-F A 深水土中量、A s-B φ 0.2cm 微量含む。しまり・粘性やや弱。

2 灰褐色土 H r-F A 深水土少量、A s-B φ 0.2cm・鉄分無量含む。しまり・粘性やや弱。

3 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm+H r-F A 深水土少量含む。しまり・粘性やや弱。

4 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm+H r-F A 深水土無量含む。しまり・粘性やや弱。

W-50 号溝



W-50 号溝

1 黄褐色土 A s-A φ 0.2cm 微量含む。しまり・粘性やや弱。粘性弱。

2 灰褐色土 H r-F A 深水土少量、A s-B φ 0.2cm・鉄分無量含む。しまり・粘性やや弱。

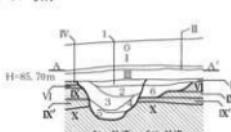
3 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量、H r-F A 深水土少量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。

4 灰灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量含む。しまり・粘性やや弱。W-51a 旗。

5 灰褐色土 H r-F A 深水土多量、黑色粘質土中量、A s-B φ 0.2cm 少量含む。しまり・粘性やや弱。

6 黑褐色土 A s-B φ 0.2cm 少量。黑色粘質土無量含む。しまり・粘性あり。W-51 b 旗。

W-51 号溝



W-51 号溝

1 黄褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量含む。しまりやや弱。粘性弱。W-51a。

2 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量、H r-F A 深水土・黑色粘質土無量含む。しまりやや弱。

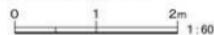
3 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量、H r-F A 深水土少量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。

4 灰灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 中量含む。しまり・粘性やや弱。W-51a 旗。

5 灰褐色土 H r-F A 深水土多量、黑色粘質土中量、A s-B φ 0.2cm 少量含む。しまり・粘性やや弱。

6 黑褐色土 A s-B φ 0.2cm 少量。黑色粘質土無量含む。しまり・粘性あり。W-51 b 旗。

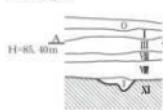
第18図 W-43号・45号～51号溝跡



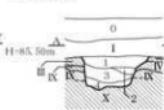
W-52 号溝



W-53 号溝



W-54 号溝



W-53 号溝

- 1 噴灰褐色土 黒色粘質土・鉄分少額、A s-B φ 0.2cm・H r-F A洪流水土微量含む。しまりやや弱。粘性ややあり。
2 灰褐色土 A s-B φ 0.2cm・H r-F A洪流水土微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
3 噴灰黃褐色土 A s-B φ 0.2cm・H r-F A洪流水土微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
4 噴灰黃褐色土 H r-F A洪流水土少量。黒色粘質土微量含む。しまりあり。粘性やや弱。

W-54 号溝・55 号溝



W-54 号溝 (B-B')

- 1 噴灰褐色土 A s-A φ 0.2cm・H r-F A洪流水土・黒色粘質土微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
2 噴灰褐色土 黑色粘質土微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
3 噴灰褐色土 H r-F A洪流水土・鉄分少額、A s-B φ 0.2cm・H r-F A鉄石・黒色粘質土微量含む。しまりあり。
4 噴灰褐色土 H r-F A洪流水土。稍軟中量、A s-C φ 0.2cm・少額含む。しまり・粘性やや弱。

W-55 号溝

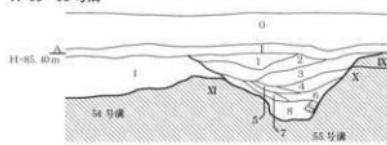
56号溝 (馬背溝)

- 1 噴灰褐色土 A s-A φ 0.2cm・H r-F A鉄石・黒色粘質土微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
2 噴灰褐色土 黑色粘質土少額、A s-A φ 0.2cm・H r-F A鉄石微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
3 噴灰褐色土 H r-F A洪流水土・鉄分少額、A s-C φ 0.2cm・H r-F A鉄石・黒色粘質土微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
4 噴灰褐色土 H r-F A洪流水土。稍軟中量、A s-C φ 0.2cm・少額含む。しまり・粘性やや弱。

57号溝

- 1 噴灰褐色土 H r-F A洪流水土多量。黑色粘質土少額、A s-C φ 0.2cm微量含む。しまり・粘性やや弱。
2 噴灰褐色土 H r-F A洪流水土中量、A s-C φ 0.2cm少額含む。しまりやや弱。粘性弱。
3 噴灰褐色土 H r-F A洪流水土中量、A s-C φ 0.2cm微量含む。しまり・粘性やや弱。
4 噴灰褐色土 黑色粘質土多量、H r-F A鉄石微量含む。しまりあり。粘性やや弱。

W-55・58 号溝



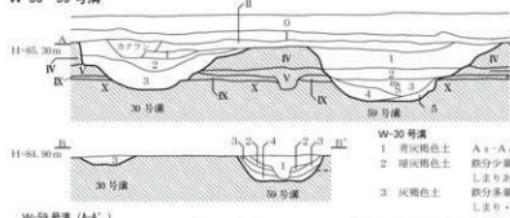
W-55 号溝

- 1 噴灰褐色土 H r-F A洪流水土少額、A s-A φ 0.2cm・A s-B φ 0.2cm微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
2 灰褐色土 A s-A φ 0.2cm少量、A s-B φ 0.2cm・H r-F A鉄石・黑色粘質土微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
3 噴灰褐色土 A s-A φ 0.2cm・A s-C φ 0.2cm・黑色粘質土少額、H r-F A鉄石微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
4 噴灰褐色土 黑色粘質土少額、A s-C φ 0.2cm微量含む。しまり・粘性やや弱。
5 灰褐色土 鉄分少額、A s-C φ 0.2cm微量含む。しまり・粘性やや弱。
6 黑褐色土 A s-C φ 0.2cm少量、H r-F A鉄石微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
7 噴灰褐色土 H r-F A鉄石少量。鉄分微量含む。しまり・粘性弱。
8 噴灰褐色土 H r-F A洪流水土・鉄分中量含む。黑色粘質土少額含む。しまりあり。粘性弱。

W-58 号溝

- 1 噴灰褐色土 H r-F A洪流水土多量。黑色粘質土微量含む。しまりやや弱。粘性弱。H r-F A二次堆積土。

W-30・59 号溝

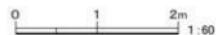


W-59 号溝 (A-A')

- 1 噴灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量、鉄分中量、A s-A φ 0.2cm微量含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
2 噴灰褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量、鉄分微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
3 噴灰褐色土 鉄分中量、A s-B φ 0.2cm少額含む。しまりあり。粘性やや弱。
4 單褐色土 A s-B φ 0.2cm・H r-F A洪流水土・砂粒・鉄分中量。黑色粘質土微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
5 噴灰褐色土 H r-F A洪流水土多量。黑色粘質土少額、A s-B φ 0.2cm微量含む。しまり・粘性弱。

W-59 号溝 (B-B')

- 1 噴灰褐色土 鉄分少額含む。しまりやや弱。粘性やや弱。
2 單褐色土 A s-B φ 0.2cm 多量、砂粒少量、鉄分微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
3 黑褐色土 A s-B φ 0.2cm・H r-F A法木土・砂粒中量。鉄分微量含む。しまりあり。粘性やや弱。
4 噴灰黃褐色土 H r-F A洪流水土多量。砂粒中量、A s-B φ 0.2cm 黑色粘質土・鉄分少額含む。しまりあり。粘性やや弱。

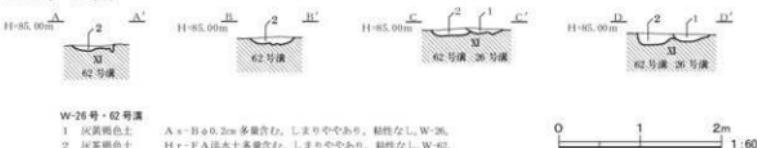


第19図 W-30号溝、52号溝～59号溝跡

W-35号・60号溝



W-26号・62号溝



第20図 W-26号、35号、60号～62号溝跡

失われているが、調査区北壁でさらに北へ連続することを確認している。最大部の上幅98cm・深さ18cmで、断面形はU字状である。**埋没状態**：F A洪水土を主とする埋土である。**遺物**：なし。**時期**：古墳後期から奈良時代頃とみられる。

4 土 坑

D-2号土坑（第13・21図、P L. 15）

位置：18区北半部で検出された。**重複**：なし。**規模・形態**：南北に長い楕円形とみられ、長径が1.83m、短径は1m以上であったとみられる。深さは44cmほどで、断面形は挿り鉢状である。**埋没状態**：底面には拳大前後の礫が、多量の砂粒とともに流れ込んだ状況で検出された。B軽石の混入も認められた。**遺物**：混入とみられる土師器・須恵器・陶器の細片が少量出土している。**時期**：埋土の状況から中世以後とみられる。

D-3号土坑（第14・22図、P L. 9・15）

位置：5・6区の北東部分で検出された。**重複**：なし。**規模・形態**：東西に長い楕円形で、上部がさらに西側に張り出す。長径は1.15m、深さ40cmで、断面形は円錐形状を呈する。**埋没状態**：V層に黒色粘質土が混じる埋土で、F A粒の混入が見られた。**遺物**：土師器壺の半欠品（第25図土坑出土遺物1）が出土している。**時期**：埋土やD-3号土坑とほぼ同形・同規模であることから、奈良時代頃とみられる。

D-4号土坑（第14・22図、P L. 9）

位置：5・6区の南側で検出された。**重複**：なし。**規模・形態**：径90cmほどの円形で、深さは40cmを計る。断面形は円錐形である。**埋没状態**：V層由来の灰褐色粘質土で埋没している。**遺物**：なし。**時期**：埋土やD-3号土坑とほぼ同形・同規模であることから、奈良時代頃とみられる。

D-5号土坑（第14・22図、P L. 9・16）

位置：7区北側で検出された。**重複**：なし。**規模・形態**：平面・断面形とも不定形で、規模は最長部で1.57m、最深部が20cmほどを計り、皿状の断面形である。**埋没状態**：埋土はF A洪水土に由来するとみられる灰

黄褐色砂質土であった。 遺物：土師器・須恵器の細片が少量出土している。 時期：埋土の状況から古墳時代後期頃とみられる。

D - 6号土坑（第14・22図、P.L. 9・16）

位置：7区北端付近で検出された。 重複：なし。 規模・形態：平面・断面形とも不定形で、最長部が1.65m、最深部は25cmを計る。 埋没状態：埋土はFA洪水土や砂粒などを多量に含んでいた。 遺物：なし。 時期：埋土の状況から古墳時代後期頃とみられる。

D - 7号土坑（第14・22図、P.L. 9・16）

位置：7区の中央部で検出された。 重複：W-62号溝を切っている。 規模・形態：平面形はやや不定形な梢円形で、長径が1.75m、深さは26cmほどである。断面形も不定形な皿状である。 埋没状態：埋土はFA洪水土に砂粒が多量に混入した層のみであった。 遺物：土師器の細片が少量出土している。 時期：埋土の状況から古墳時代後期頃とみられる。

D - 8号土坑（第14・22図）

位置：9区中央部で検出された。 重複：なし。 規模・形態：平面形は径70cmほどの円形とみられる。断面形は円錐形である。 埋没状態：FA粒をわずかに含むⅧ層由来の灰褐色粘質土で埋没している。 遺物：なし。 時期：埋土や形態はD-3号・4号土坑と同様であり、奈良時代頃とみられる。

D - 9号土坑（第14・22図）

位置：7区中央部で検出された。 重複：なし。 規模・形態：平面は、長径が66cmほどの梢円形で、深さ30cmを計る。断面形は円錐形を呈する。 埋没状態：Ⅷ層由来の灰褐色粘質土で埋没している。 遺物：なし。 時期：埋土や形態から、D-3号・4号・8号土坑と同じく奈良時代頃とみられる。

5 井戸跡

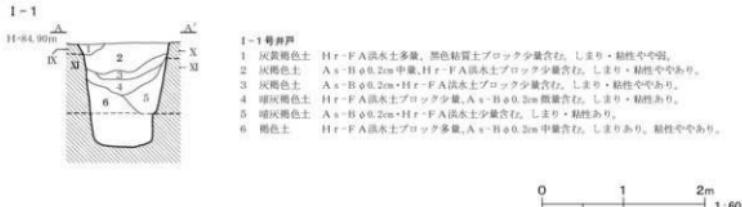
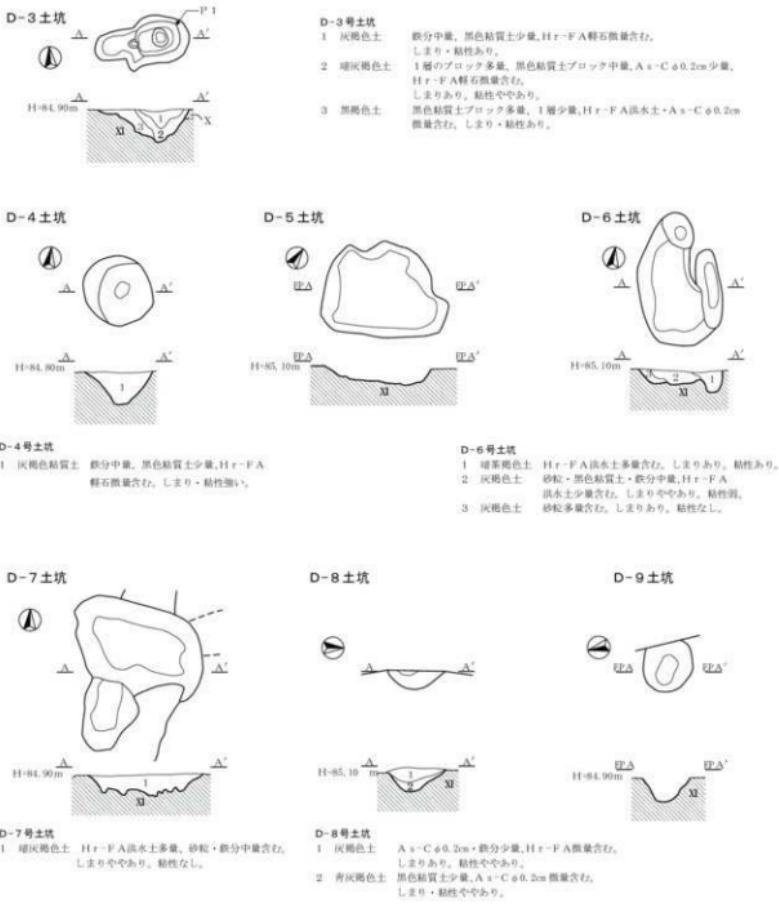
I - 1号井戸跡（第14・22図、P.L. 9・16）

位置：5・6区北東部分で検出された。 重複：なし。 規模・形態：直径1.1～1.2m、深さは1.3m弱の小規模な素掘りの井戸である。底面は平坦で、灰白色の粘土層中まで掘り込まれていた。 埋没状態：埋土中にはいずれもB軽石が混入している。またFA層のブロックも多く、埋め戻されたとみられる状況であった。 遺物：底面から木片が出土している。 時期：埋土の状況から中世とみられ、南西に検出されたW-27号溝（環濠敷跡）との関連が考えられる。

D-2号土坑



第21図 D - 2号土坑



第22図 D-3号～9号土坑、I-1号井戸

6 遺物包含層

2区（古墳時代中期）（第14・23図、P.L.14）

2区では、北半部でX層（A s - C混黒褐色土層）の面が微高地状に高く、南半部にかけて緩やかに傾斜している地形であった。南半部にはIX層（H r - F A層）とX層との間に20cm弱ほどの厚さで、鉄分の沈着が頗著な黒褐色土層が見られ、この層中から土器片がまとまって出土した。第25図包含層出土遺物1～4はこの黒褐色土層中からの出土であり、5・6は北のX層上面での出土である。

17区（古墳時代中期）（第13図、P.L.16）

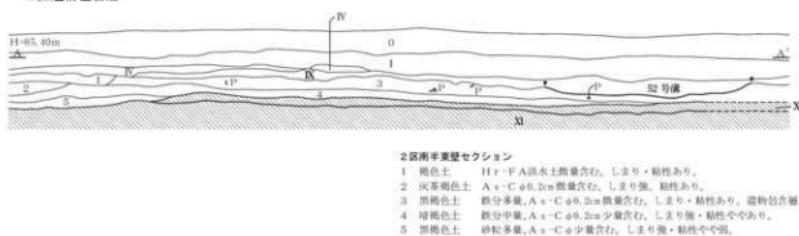
17～20区の調査区では、IX層と、X層あるいはXI層（黒褐色土層）との間に洪水堆積層とみられるIX'層（灰褐色粘質土層）の堆積が認められた。17区の中央部は表土層直下がX層となっていて、北側からの微高地地形が続いており、この東側と西側は傾斜面となっていた。IX'層は17～20区の調査区でのみ認められ、特に17区の西側傾斜面では土器片が多量に出土した。土器はいずれも破片で、完形に復元できるものはなかった。また、17区以外ではIX'層からの土器の出土はなかった。これらの土器はX層の面が微高地状に残る17区中央部、及びその北方からの流れ込みと考えられた。なお、17区中央部の調査範囲内では住居跡などの遺構は認められなかった。

第26図7～14の土器は西側斜面から、15は中央部のX層上面からの出土である。16は東側斜面からで、ここではIX'層の下部はXI層（黒褐色土層）となっていた。17は18区D-2号土坑の南から出土した。

5区（奈良時代）（第14・23図、P.L.16）

北東隅部で検出された。VII層とみられる灰褐色の粘質土層中から第26図18の土師器坏の完形品が出土した。周辺一帯はIX層上面に凹凸が目立ち、本遺物もこの中のやや大きめのくぼみから出土している。南に近接してK-3号土坑が存在し、やはり土師器坏の破片が出土していることもあり、周囲を含め精査したがほかに遺構や遺物は確認されなかった。VII層で直接埋没している状況であった。

2区遺物包含層



5区 P-1



第23図 2区、5区包含層

第4表 平安時代末期以降の溝跡一覧

番号	調査区	走行	幅 厚 (m)			標高	断面形	断面・削合	削・削	調査
			上幅	下幅	厚					
9-1	14	東西	0.70	0.22	0.48	0.0	直角形	直より上	2 × 1	11区×12上・溝跡か? 正北に偏
9-2a	8 × 14	東～西	0.40	0.10	0.30	(17.5)	U字	直	4a × 4b	12区×10～19区×42上 連續か?
9-2b	8 × 14	東～西	(0.00)	0.26	0.40	26.4	直角形	直	4a × 4b × 4c	2a × 2b等、近世以後。
9-2c	8 × 14	東～西	(0.00)	0.60	0.40	41.4	隔壁型	直上より	4b × 4c	
9-2d	8	東～西	0.60	0.22	0.38	3.4	直角形	直	4c × 9.2	
9-3	8	西北	0.36	0.16	0.20	2.5	U字	直上2.2		
9-4a	11 × 13 × 14	東西	1.74	0.76	0.98	(25.0)	直角形	直	4a × 4c × 5	近世以後。
9-4b	11 × 13 × 14	東西	1.02	0.74	0.28	(25.0)	直角形	直上より	4b × 4c	近世以後。
9-4c	11 × 13 × 14	東西	1.71	1.10	0.61	(25.0)	直角形	直上より	4c × 4d	水路? 正北に偏。
9-4d	11 × 13 × 14	東西	1.60 ^a n	1.50 ^a n	0.22 ^a n	(25.0)	直角形	直	4c × 4d	近世以後。
9-4e	11 × 13 × 14	東西	9	7	2	7	直角形	直上より	4a × 4b × 4c	
9-5	14	東～南	1.78	1.14	0.27	25.6	直角形	直より上	4a × 5	近世以後。
9-6	11 × 13 × 14	東～西	2.25	1.56	0.69	(25.0)	直角形	直より上		中世。
9-7	11 × 13 × 14	東～西	3.95	1.80	2.15	(25.0)	直角形	直	8 × 7	
9-8	14	東西	2.25	1.54	0.71	16.8	直角形	直上より	8 × 7	中世。
9-9	14	東西	1.68 ^a n	1.07 ^a n	0.61 ^a n	24.4	直角形	直	9 × 8 × 10 × 11	3m以上の墓塚。近世。
9-10	12	東～南	0.60 ^a n	0.20	0.40	2.3	U字			9.2m通路? 正北に偏。
9-11	12	東～南	0.74	0.20	0.54	1.7	U字	直		9.2m通路? 正北に偏。
9-12	13	南北	0.76	0.44	0.32	43.6	直角形	直より上		現地多層、平安末～中世。
9-13	11 × 13	東西	0.58	0.25	0.33	29.30	直角形	又より上	15 × 36 × 15/16	(1区多く+2層壁)。近世。
9-14	8 × 11	東～南	(1.18)	0.20	0.30	65.0	U字	直より	14 × 4	近世。
9-15	8 × 11	東～南	1.70 ^a n	0.30	1.40	94.0	直角形	直	15 × 13	近世。
9-16	8 × 11	東～南	0.80	0.21	0.59	(36.0)	V字	直の上	16 × 13 × 27	近世以前。
9-17	11	西北	0.55	0.23	0.32	16.8	直角形	直の上	16 × 17	現土一側に近い。平安末。
9-18	11	西北	0.36	0.13	0.23	43.8	直角形	直の上	16 × 18	現土一側に近い。平安末。
9-19	11	西北	0.36	0.16	0.20	34.4	U字	直の上	4 × 9 × 10	現土一側に近い。平安末。
9-20	11	東～南	0.36	0.17	0.21	23.5	U字	直の上	6 × 9 × 20	現土多層、平安末～中世。
9-21	12	西北	2.00	1.10	0.90	3.7	直角形	直より上		中世。
9-22	12	西北	2.00	0.76	1.24	2.00	直角形	直より上	22	水路。中世以後。
9-23a	8 × 11	西北	1.30	0.53	0.76	3.9	U字	直より上	23a × 22	水路。中世以後。
9-23b	8 × 11	西北	1.30	0.73	0.50	3.9	U字	直より上	23b × 22	水路。中世以後。
9-23c	12	西北	2.12	0.67	1.45	2.4	U字	直より上	23a/23b × 23/23c	中世以後。遺構? リ
9-23d	8 × 11	西北	0.9	0.45	0.46	100.0	直角形	直より上	23/23c/23d × 28 × 29	中世以後。遺構? リ
9-24	7	東～南	0.72	0.40	0.32	10.8	U字	直		9.2m間隔か? 中世以後。
9-25	7	東～南	0.74	0.40	0.34	13.0	U字	直	23a × 25	水路。日々、平安末～中世。
9-26	7	東～南	(0.20)	0.00	0.20	101.8	直角形	直	27 × 28 × 36 × 38 × 22/26	古式接続。平安末。
9-27	5 × 6 × 7	東～南	2.30	0.72	0.80	(33.0)	V字	直より下	27 × 26 × 29 × 62	遺構接続。中世。
9-28	7	東西	1.40	0.45	0.53	15.3	直角形	直より下	28 × 27 × 32 × 29	近世以前。
9-29	7	東～南	0.70	0.32	0.38	17.0	U字	直より下	27 × 27 × 28 × 29	現土多層、平安末～中世。
9-30	3 × 7 × 5	西北～西南	2.00	0.80	1.20	37.6	直角形	直より下	30 × 31 × 28 × 32	中世以前。
9-31a	7	東西	0.50	0.20	0.30	16.0	直角形	直より下	31a × 31b	近世以前。
9-31b	7	東西	0.50	0.14	0.36	11.3	直角形	直より下	31b × 31c	近世以前。
9-32	7	東～南	0.50	0.20	0.30	11.3	直角形	直より下	30 × 31 × 28 × 27	9.2m × 26m。中世。
9-33	9	東西	0.94	0.62	0.32	6.8	隔壁型	直	27 × 28 × 36 × 38 × 32/30	人の形の埋葬? 中世。
9-34	6	東西	0.79	0.12	0.67	6.5	隔壁型	直より下	50 × 40 × 45m。中世。	
9-35a	5 × 6 × 7	東～南	1.14	0.38	0.30	5.3	U字	直より下	50 × 25	人馬埋葬? 中世。
9-35b	5 × 6 × 7	東～南	0.58	0.38	0.20	(15.0)	U字	直より下	50 × 25	人馬埋葬? 中世。
9-37	1	西北	0.68	0.42	0.27	5.7	隔壁型	直より下	37 × 36 × 40	中世以前。
9-38	1	西北	1.58	1.00	0.58	5.6	隔壁型	直		カタシボ。近代。
9-39	19	西北	2.44	1.28	0.56	2.8	隔壁型	直より下	9.42 × 24m。中世以後。	
9-41	19	西北	1.85	0.38	0.30	5.1	U字	直		近世以前。
9-43	14 × 19	西北	(1.70)	1.30	0.52	9.7	隔壁型	直より下	9.2m通路? 中世以後。	
9-44	18	東～南	0.58	0.30	0.28	17.3	U字	直より下	45 × 60 × 44	れ多層。平安末～中世。
9-45	18	東西	0.70	0.19	0.51	2.3	U字	直より下	45 × 44	9.2m × 通路。中世。
9-46	18	東西	2.22	1.60	0.42	2.2	隔壁型	直より下	45 × 44	9.2m × 通路。中世。
9-47	17	東～南～東	2.30	1.30	0.38	2.2	隔壁型	直～IV		9.2m × 通路。中世。
9-48	20	東西	1.27	0.60	0.66	101.8	U字	直	27 × 28 × 36 × 38 × 32/30	人の形の埋葬? 中世。
9-49	9	東西	0.94	0.62	0.32	6.8	隔壁型	直	27 × 28 × 36 × 38 × 32/30	人の形の埋葬? 中世。
9-50	6	東西	0.79	0.12	0.67	6.5	隔壁型	直より下	50 × 40 × 45m。中世。	
9-51a	5 × 6 × 7	東～南	1.14	0.38	0.30	5.3	U字	直より下	50 × 25	人馬埋葬? 中世。
9-51b	5 × 6 × 7	東～南	0.58	0.38	0.20	(15.0)	U字	直より下	50 × 25	人馬埋葬? 中世。
9-52	1	西北	0.68	0.42	0.27	5.7	隔壁型	直より下	37 × 36 × 40	中世以前。
9-53	1	西北	1.58	1.00	0.58	5.6	隔壁型	直		カタシボ。近代。
9-54	19	西北	2.44	1.28	0.56	2.8	隔壁型	直より下	9.42 × 24m。中世以後。	
9-55	19	西北	1.85	0.38	0.30	5.1	U字	直		近世以前。
9-56	14 × 19	西北	(1.70)	1.30	0.52	9.7	隔壁型	直より下	9.2m通路? 中世以後。	
9-57	18	東～南	0.58	0.30	0.28	17.3	U字	直より下	50 × 50	現土を含む。水路。近世以後。
9-58	2	東～南～東	(0.60)	0.36	0.44	7.1	U字	直より下	50 × 54 × 27	現土を含む。近世以後。
9-59	5	東～南～東	(2.20)	0.32	0.72	29.2	隔壁型	直		水路。中世。
9-60	5	東西	0.40	0.16	0.24	0.5	隔壁型	直	9.2m通路? 中世以後。	
9-61	7	西北	0.40	0.23	0.17	11.7	隔壁型	直	9.2m通路? 中世以後。	

(注) 上幅や傾きの規則について、土塁側面で上位での掘り込みが確認できたものはその数値としたため、平面図の規格と一致しない部分があり。(×)書きは全体が不明の場合、確認できる部分の数値。

第5表 古墳時代から平安時代の溝跡一覧

番号	調査区	走行	幅 厚 (m)			標高	断面形	断面・削合	削・削	調査
			上幅	下幅	厚					
F-36	1	西北～西南	0.54	0.40	0.14	0.7	U字	直より上	36a × 36b	水路。古墳周辺
F-36b	1	西北～西南	0.55	0.45	0.12	0.1	隔壁型	X	36a × 36b	現土多層。古墳周辺
F-39	1	東～南	0.58	0.56	0.16	2.8	隔壁型	直		人の形の埋葬。古墳周辺
F-42	19	西北	0.40	0.14	0.14	3.1	U字	直		奈良丘。
F-49	17	西北～西南	0.52	0.28	0.14	4.2	U字	直		Faで接続。古墳周辺
F-52	2 × 3.4	西北～東南	1.40	0.80	0.14	11.0	隔壁型	X		Faで接続。大規模周辺
F-53	3 × 4	東北～東	0.35	0.20	0.16	21.2	U字	直		奈良丘。
F-57	2	西北～東南	0.70	0.26	0.46	7.6	U字	直より下	57 × 37	下層F1層。所に廻縫。古墳後方?
F-58	2	西北～東南	(0.60)	0.76	0.30	2.3	隔壁型	直より上	57 × 36	Faで接続。古墳周辺。
F-62	7	東～南	0.98	0.73	0.18	16.5	U字	直	27 × 37 × 26 × 32	多層。奈良丘。

(注) 上幅や傾きの規則について、土塁側面で上位での掘り込みが確認できたものはその数値としたため、平面図の規格と一致しない部分があり。(×)書きは全体が不明の場合、確認できる部分の数値。

VI 出土遺物

1 溝跡出土遺物 (第24・25図、P L. 17)

埋土中の出土で小破片が多く、明確に遺構に伴うといえる遺物はなかったが、混入品とみられる10・11及び14・15以外はおよその遺構の時期を示していると考えられる。

2 土坑出土遺物 (第25図、P L. 17)

5区3号土坑出土の土師器环のみである。平底に近く、口縁部は屈曲しながら立ち上がり、端部は内側に丸く肥厚気味である。奈良時代から平安時代初め頃とみられる。

3 1区畠跡出土遺物 (第25図、P L. 17)

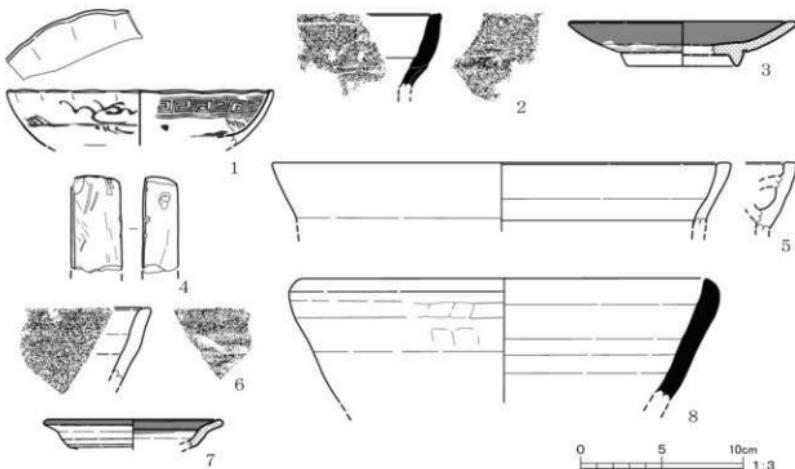
1はX層上面の出土で、古墳時代前期の器台である。2もX層上面の出土で、縄文の施文された吉ヶ谷式系の土器である。3はX層内の出土で、形態や調整からみて梅式系の鉢である。土師器器台やその他の土師器片の内容からみて、時期的には古墳時代前期と考えられる。

4 包含層出土遺物 (第25・26図、P L. 17・18)

5・6は2区中央付近のX層上面での出土である。櫛描波状文や廉状文が施されている。樽式土器の終末期とみられるが、時期的には1区畠跡と同様に古墳時代前期に入るものと考えられる。

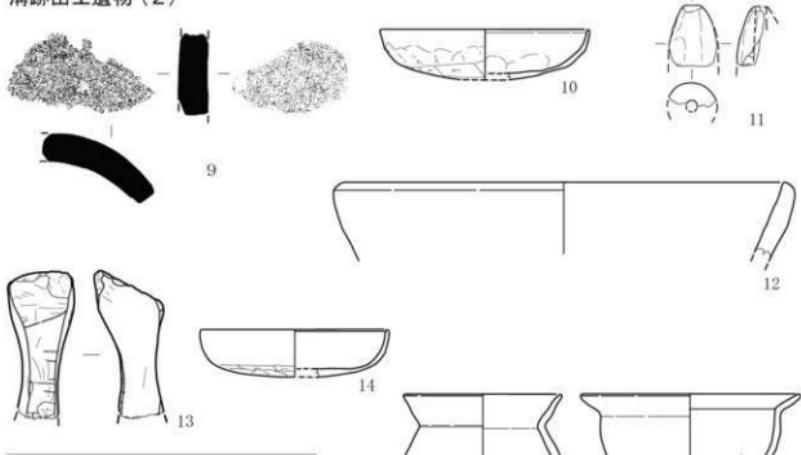
そのほか、1～4の2区南半部褐色土層からの出土土器と、7～17の17区出土土器は、甕や壺・壇・鉢・高环などの形態から、全体に古墳時代中期前半の様相を示している。

18の土師器环は、5区北東部のIX層上部の灰褐色粘質土層中の出土で、平底気味の底部から内済気味に立ち上がる口縁部の様子から、奈良時代とみられる。

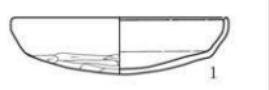


第24図 溝跡出土遺物（1）

溝跡出土遺物 (2)



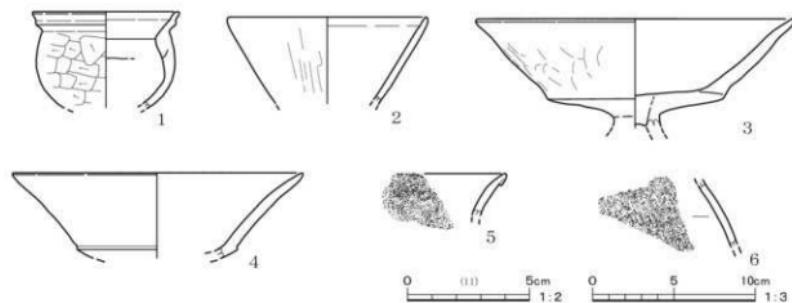
土坑出土遺物



壠跡出土遺物

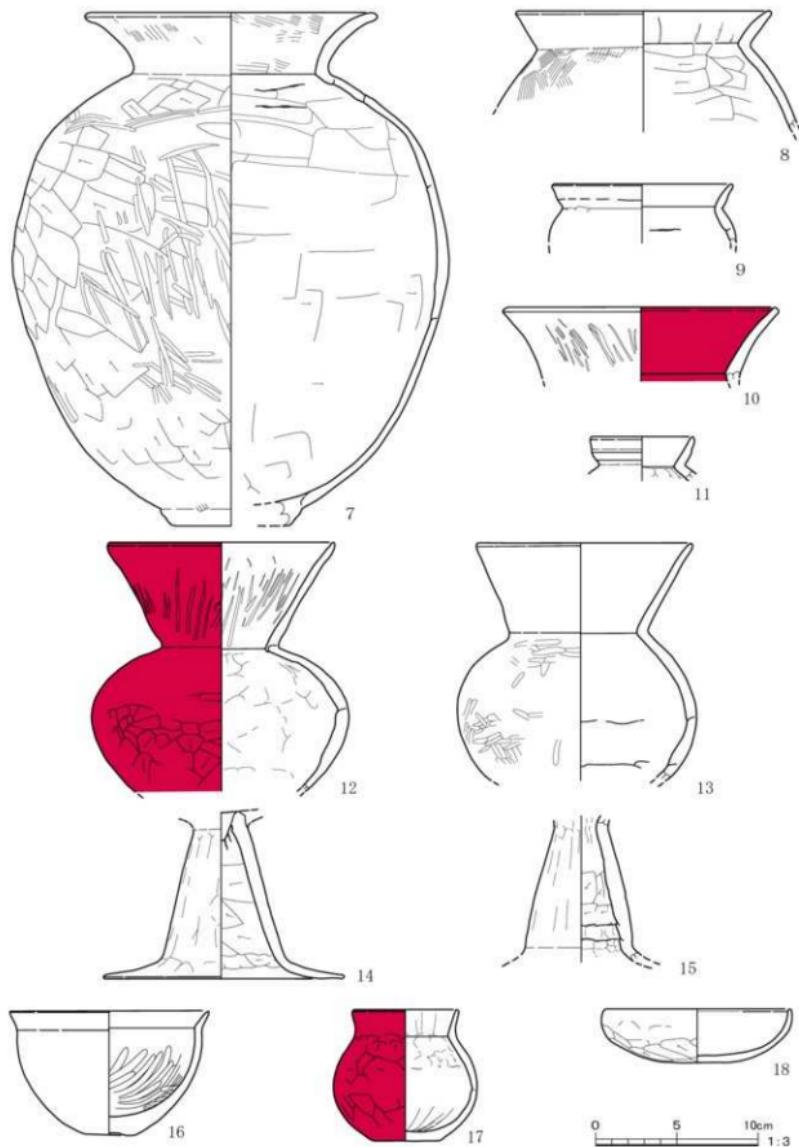


包含層出土遺物 (1)



第 25 図 溝跡出土遺物 (2)、土坑出土遺物、壠跡出土遺物、包含層出土遺物 (1)

包含層出土遺物（2）



第26図 包含層出土遺物（2）

第6表 溝跡出土遺物観察表

No.	遺構名	器種	法量(cm)	①新土 ②焼成 ③色調	成・整形技法等	備考
1	W-4 a	陶質器皿	口径: (16.4) 器高: < 3.30	①新土 ②堅微 ③灰白	透明釉。染付。内面に雷文。外面: ロクロ調整。 内面: ロクロ調整。	口縁～体部 1/6 瓶戸系輪花皿
2	W-5	軟質陶器 内耳塙	器高: < 4.60	①細砂粒・赤色粒 ②還元焰 ③黄灰	外面: ロクロ調整。 内面: ロクロ調整。	口縁部分
3	#	陶器皿	口径: (14.0) 底径: (6.8) 器高: < 2.70	①細砂粒・石英 ②還元焰 ③灰	灰釉。口縁部外側から内面全体に施釉。 外面: ロクロ調整。 内面: ロクロ調整。見込部に重ね焼き痕。	1/5
4	W-6	砥石	長さ: < 6.00 幅 : 3.1 厚さ: 2.2	③灰黄	石材: 磨成岩。 形状: 直方体。 重さ: (76.9g)	1/2 ? 提手。 4側面に使用痕。 鉄分锈着。
5	W-7	軟質陶器 内耳塙	口径: (27.8) 器高: < 4.00	①細砂粒・白色粒 ②還元焰 ③灰	外面: ロクロ調整。 内面: ロクロ調整。内耳取付。	口縁部 1/9
6	W-15	軟質陶器 内耳塙	器高: < 4.80	①細砂粒 ②還元焰 ③褐灰	外面: ロクロ調整。 内面: ロクロ調整。	口縁部分
7	#	陶器	口径: (10.4) 底径: < 1.80 器高: < 3.00	①黒色粒 ②還元焰 ③黄灰	灰釉。口唇部外側から口縁部内面に施釉。 外面: ロクロ調整。 内面: ロクロ調整。	口縁～体部 1/6
8	W-23 g 南半部	鋤	口径: (25.2)	①細砂粒・赤色粒・石英 ②還元焰 ③灰黄	外面: ロクロ調整。体部ヘラナダ後、ロクロ調整。 内面: ロクロ調整。	口縁～胸部 1/8
9	#	丸瓦	長さ: < 5.00 幅 : < 7.40 厚さ: 1.8	①細砂粒・白色粒 ②還元焰 ③灰	外面: ナデ。 内面: 布目。	破片
10	W-26 北半部	土師器 壺	口径: (12.8) 器高: 3.1	①細砂粒・角閃石 ②酸化焰 ③棕	外面: 口縁部ヨコナダ。体部下半ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナダ。体部ナダ。	1/4
11	# 南半部	土鍋	長さ: < 2.50 径 : (2.3)	①細砂粒・チャート ②酸化焰 ③明褐色	形状: 結球形。 孔径: (0.4cm)。 重さ: < 5.0 g 。外面: ナデ。	1/4 鉄分多量に锈着。
12	W-27 東辺部	軟質陶器 鋤	口径: (27.0)	①細砂粒・石英 ②還元焰 ③にぶい黄	外面: ロクロ調整。 内面: ロクロ調整。	口縁部 1/9
13	# 北辺部	砥石	幅 : 4.0 厚さ: 3.9	③灰白	石材: 磨成岩。 形状: 不整直方体。 重さ: (138.3g)	1/2 ? 提手。 大きく研ぎ減り。 鉄分锈着。
14	W-32	土師器 壺	口径: (11.4) 器高: 2.9	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	外面: 口縁部ヨコナダ。体部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナダ。体部ナダ。	口縁～体部 1/2。 鉄分锈着。
15	W-54	土師器 小型甕	口径: (9.8) 底径: 3.6 器高: 8.4	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焰 ③明黄褐色	外面: 口縁部ヨコナダ。脚下部部分的にヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナダ。脚上部ヘラケズリ。 底部ヘラケズリ。内面: 口縁部ヨコナダ。脚上部外 部ヘラケズリ。脚下部～底部ナダ。	1/2 口縁部～脚上部外 面に炭化物付着。
16	W-57	土師器 鋤	口径: (13.6) 底径: 4.0 器高: 6.5	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焰 ③棕	外面: 口縁部ヨコナダ。脚上部ナダ。 内面: 口縁部ヨコナダ。脚上半ナダ。脚下部～底部 ヘラナダ。	1/3

第7表 土坑出土遺物観察表

No.	遺構名	器種	法量(cm)	①新土 ②焼成 ③色調	成・整形技法	備考
1	D-3	土師器 壺	口径: (13.4) 器高: 3.5	①細砂粒・角閃石・チャート ②酸化焰 ③棕	外面: 口縁部ヨコナダ。体部ヘラミガキ？脚部継位 ヘラミガキ。外側全体を黑色塗彩。内面: 口縁部ヨコナダ。 内面: 口縁部ヨコナダ。体部ヘラミガキ。	1/2 P 1

第8表 岩跡出土遺物観察表

No.	遺構名	器種	法量(cm)	①新土 ②焼成 ③色調	成・整形技法	備考
1	1区 晶跡	土師器 器台	口径: (10.6) 器高: < 4.90	①細砂粒 ②酸化焰 ③明褐色	外側: 口縁部ヨコナダ。脚部継位ヘラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナダ。脚部シボリ目。	口縁～脚部 1/2 晶跡No.1
2	#	弥生土器 甕	器高: < 5.80	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐色	外側: 肩部R Lの縞文。 内面: 横位ヘラミガキ。	肩部破片。 内面に炭化物， 吉ヶ谷系
3	#	弥生土器 鋤	口径: (18.0) 底径: (7.0) 器高: (6.3)	①細砂粒・石英・白色粒 ②酸化焰 ③にぶい赤褐色	外側: 口縁部横位ヘラミガキ。体部継位ヘラミガキ。 底部以外を赤色塗彩。底部ヘラミガキ。 内面: 横位ヘラミガキ。全体を赤色塗彩。	1/5 2片 樽系

第9表 包含層出土遺物観察表

No.	遺構名	器種	法量(cm)	①胎土 ②焼成 ③色調	成・整形技法	備考
1	2区南半部 黒褐色土層	土師器 小型甕	口径: (9.0) 器高: < 5.9	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焰 ③にぶい橙	外面: 口縁部ヨコナダ。胴底ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナダ。胴部横位ナダ。	口縁部1/4 S字口縁
2	#	土師器 壇	口径: (12.2) 器高: < 5.3	①細砂粒・白色粒 ②酸化焰 ③明赤褐	外面: 口縁部ヨコナダ後、縦位ヘラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナダ後、ヘラミガキ。	口縁部1/2
3	#	土師器 画 壊	口径: (19.6) 器高: < 6.7	①細砂粒 ②酸化焰 ③橙	外面: 口縁部ヨコナダ。体部~底部ヘラナダ。 内面: 口縁部ヨコナダ。体部ヘラミガキ?	壊部1/2
4	#	土師器 高 壊	口径: (17.8) 器高: < 4.8	①細砂粒 ②酸化焰 ③明赤褐	外面: ヨコナダ。 内面: ヨコナダ後、横位ヘラミガキ。	口縁部1/5
5	2区中央部 X層上面	弥生土器 甕	口径: — 器高: < 2.6	①細砂粒・赤色粒・角閃石 ②酸化焰 ③にぶい黄褐	外面: 脊折返状。幅9mm幅に6条。 内面: クシメ後、横位ヘラミガキ。	口縁部破片。傳系 6と同一個体か。
6	#	弥生土器 甕	器高: < 3.9	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焰 ③にぶい橙	外面: 脊部輪換横縞文。肩部輪換波状文。胴部横位 ヘラミガキ。幅9mm幅に6条。 内面: 横位ヘラミガキ。	肩部破片。傳系。 5と同一個体か。
7	17区西端部 IX' 層	土師器 甕	口径: (17.4) 底径: (7.2) 器高: (31.5)	①細砂粒・白色粒・石英 ②酸化焰 ③にぶい赤褐	外面: 口縁部ハケ目後、ヨコナダ。胴部ヘラケズリ 後、ヘラナダ。 内面: 口縁部ハケ目後、ヨコナダ。胴上部横位ナダ。 胴下部横位ヘラケズリ。	1/2
8	17区西側 IX' 層	土師器 甕	口径: (15.5) 器高: < 7.4	①細砂粒・白色粒・ 赤色粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐	外面: 口縁部ヨコナダ。肩部ハケ目後、ナダ。 内面: 口縁部ヘラケズリ後、ヨコナダ。肩部横位ヘ ラケズリ。	口縫~肩部3/4
9	#	土師器 小型甕	口径: (11.0) 器高: < 3.6	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐	外面: 口縁部ヨコナダ。肩部ナダ。 内面: 口縁部ヨコナダ。肩蓋ナダ。	口縫~肩部1/3
10	#	土師器 甕	口径: (16.4) 器高: < 4.6	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐	外面: ヨコナダ後、縦位ヘラミガキ。 内面: ヨコナダ。口縁部内赤彩。	口縁部1/5
11	#	土師器 小型甕	口径: 6.2 器高: < 2.7	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐	外面: ヨコナダ。 内面: 口縁部ヨコナダ。肩部指頭痕。 鉄分着。	口縫部 鉄分着。
12	#	土師器 壇	口径: (13.8) 器高: (15.3)	①細砂粒・赤色粒 ②酸化焰 ③にぶい赤褐	外面: 口縁部ヨコナダ後、縦位ヘラミガキ。胴上部 ナダ。胴下部ヘラケズリ。外面全体を赤彩。 内面: 口縁部ヨコナダ後、縦位ヘラミガキ。胴部ユ ビナダ。	口縫部3/4 胴部1/3
13	#	土師器 壇	口径: (13.2) 器高: (14.6)	①細砂粒・石英・チャーボ ②酸化焰 ③明赤褐	外面: 口縁部ヨコナダ。胴部ヘラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナダ。胴底ナダ。	口縫部1/6 胴3/4
14	#	土師器 高 壊	口径: (14.6) 器高: < 10.3	①細砂粒 ②酸化焰 ③にぶい黄褐	外面: 脚柱部ナダ。裾部ヨコナダ。 内面: 脚柱部シボリ目、横位ヘラケズリ。裾部ヨコ ナダ。	脚部1/2
15	17区中央部 X層上面	土師器 高 壊	器高: < 9.0	①細砂粒・石英 ②酸化焰 ③赤褐	外面: 脚柱部ナダ。裾部ヨコナダ。 内面: シボリ目、輪積み痕、横位ヘラケズリ。	脚柱部7/8
16	17区東側 XI層上面	土師器 甕	口径: (12.2) 底径: 7.7 器高: 3.1	①細砂粒・石英・チャーボ ②酸化焰 ③にぶい赤褐	外面: 口縁部ヨコナダ。体部斜位ヘラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナダ。体部斜位ヘラミガキ。 外面に多量の煤。	1/2
17	18区 XI層上面	土師器 小型甕	口径: (6.3) 底径: 4.0 器高: 8.1	①細砂粒・角閃石 ②酸化焰 ③にぶい黄褐	外面: 口縁部ヨコナダ。胴部ヘラケズリ。底部ヘ ラケズリ。外面赤色磨影。 内面: 口縁部横位ヘラケズリ後、ヨコナダ。肩部輪 積み痕。底部ヘラナダ。	3/4
18	5区 Ⅵ層	土師器 甕	口径: 11.6 器高: 3.3	①細砂粒・角閃石 ②酸化焰 ③橙	外面: 口縁部ヨコナダ。体部ヘラケズリ。 内面: 口縁部ヨコナダ。体部ヘラナダ。	口縫一部欠 5区P 1

VII まとめ

A s- B層下面で検出した遺構は平安時代末期以降のみであるが、H r- F A層下面での検出遺構は古墳時代以降の全ての時代の遺構が混在していた。

このため遺構間の位置関係などを明確にするため、全ての検出遺構を古墳時代から平安時代の時期と、平安時代末期以降の二時期に区分・整理した遺構位置図（第27図）を掲載しておく。なお1区の調査区については省略した。

1 古墳時代から平安時代

古墳時代から平安時代については遺構はやや少なかったが、1区のH r- F A層下の畠跡の検出が注目される。本遺跡や周辺ではこれまでF A層下の水田跡の検出例は多数に上るが、畠跡の発見は初例である。この畠跡検出部分は他の調査区のF A層下の水田跡とほとんど標高差もなく、微高地のような地形とはみられない。他の地点に比べて土器の小片が比較的多く出土しているところからみて付近に居住域が存在し、その周囲に小規模に営まれた畠ではないかと考えられる。歎痕は埋土の違いから二時期に分けられ、F A層で埋没した後にあまり時間をおかずして復旧されたとみられる。また歎の底面から出土した土師器片などからみて、この畠跡は古墳時代前期から継続していた可能性が高いと思われる。

F A層下の水田跡は、北の15・16区から7区全体、3区南から5・6区全体と、北東から南東にかけての広い範囲に連続して存在していたものとみられる。しかし、17～20区にかけてや、2区から3区の北半部などは北側の微高地からの緩傾斜地であり、もとから水田は存在しなかった可能性がある。逆に9区や10区の南西部は、F A層がほとんど残存していないため、本来は水田城であったものの遺構が遺存していないものとも考えられる。水田区画は極小区画で、南北軸は大きく北から西に傾いており、この走向は周辺の調査地で検出されている水田跡と同様である。

溝跡は、F A洪水層で直接埋没している溝がW-49号、52号、58号溝の3条検出された。いずれも傾斜の変換点を走り、その上部にまでF A層が堆積していた。走向は北西から南東方向で、水田跡の南北軸の方向に近い。

古墳時代中期では遺構は検出されなかったものの遺物包含層の発見があった。2区と17区の2か所で、いずれも中期の土器片がF A層の下層から比較的まとまって出土している。完形に復元されるものはなく小破片が散在する状況であるが、それぞれの調査区の近隣にこの時期の居住域が存在することが予想される。本地域では中期の遺跡はこれまでほとんど発見されておらず、この空白期を埋める資料といえる。

今回の調査では、古墳時代後期の水田跡が広い範囲に検出されたのみならず、一部分ではあるが前期頃からの畠跡や中期の土器の発見もあった。この結果から本地域一帯の水田開発を主導し、広瀬・朝倉古墳群を造営した古墳時代全般を通じて県内でも有力な勢力であった集団の生産基盤や社会構造の一端が窺える。

ところで、この地域の開発にあたった集団は古墳時代前期に東海地方から移住してきた集団と考えられているが、大規模かつ組織的に展開される地域開発の様子や、当初から県内の古墳時代前期を代表する前橋八幡山古墳や前橋天神山古墳などが築造される点、さらに径23mの円墳の朝倉II号古墳の存在や、公田東遺跡での前方後方形周溝墓、西善尺司遺跡検出の方形周溝墓群などの様子から、この移住は散発的なものではなく、内部に一定の階層性が存在する組織的な集団によって極めて計画的に行われたものであったと考えられる。

奈良時代頃では、D-3号・4号・8号・9号土坑が検出された。小さな円錐形の土坑で、3号土坑からは土師器坏の1/2ほどの破片が出土したが、その性格は不明である。5・6区から7区付近に集中しており、埋土はV層に似た土層である。3号土坑の付近ではV層中から土師器坏の完形品も出土しており、奈良時代頃にも比較的多くの活動の痕跡が認められた。

溝跡は、IX層上から掘り込まれ、埋土がVII層に似た灰褐色粘質土の奈良時代とみられるW-42号・53号溝が検出されている。この時期までの溝の走向は、F A層下の水田跡の軸方向に近い北西から南東方向を主としているようにみられる。その後の時代の溝跡や水田跡の軸方向が主に東西・南北を指向するのとは大きく異なっている。奈良時代頃を境に土地利用上の転換があったとみられ、条里制の施行が関係するものかと考えられる。

一方、W-62号溝は埋土の状況から古墳時代後期から奈良時代頃の溝とみられるが、その後のA s - Bの降下で埋没したW-26号溝、さらにこれを再掘削したとみられる中世のW-32号溝と、ほぼ同位置で重複が繰り返されていた。この位置が長期にわたって大きな意味を持つものであったと考えられる。

2 平安時代末以降

A s - B層の一次堆積が調査範囲の西側半分ほどでは良好に認められ、この下部では全面的に水田跡が遺存していた（第27図）。しかし、東半部では一次堆積層は残存していなかった。

B下の水田跡は、南北方向の畦畔が14区を縦断して検出され、11区と12区でも部分的ながら確認できた。畦畔は屈曲が大きいものの、全体としてはほぼ東西、南北方向に延びている。区画は南側に小規模な区画が多いが、基本的に方形の大区画であるとみられる。南北の畦畔の両側に水口を持つ例が多く、配水は地形の傾斜に合わせて北から南方向への懸け流し方式が基本とみられる。水田城の広がりは、14区から西側は広く連続することが予想されるが、東側は11区の一部までであった。東側については中世の環濠屋敷跡の立地からみても本来のA s - B層の下面はさらに高かったとみられ、水田城が広がるとしてもW-26号溝付近まではなかったかと考えられる。

本地域でも条里制の施行が想定されているが、今回のB下水田跡もその軸方向や区画から、基本的に条里制の地割を踏襲していることがうかがわれる。

11区ではB下の水田跡に隣接してB混水田跡が一部検出された。しかし溝などによる擾乱が多く南北方向の畦畔の痕跡以外詳細は明らかにならなかった。

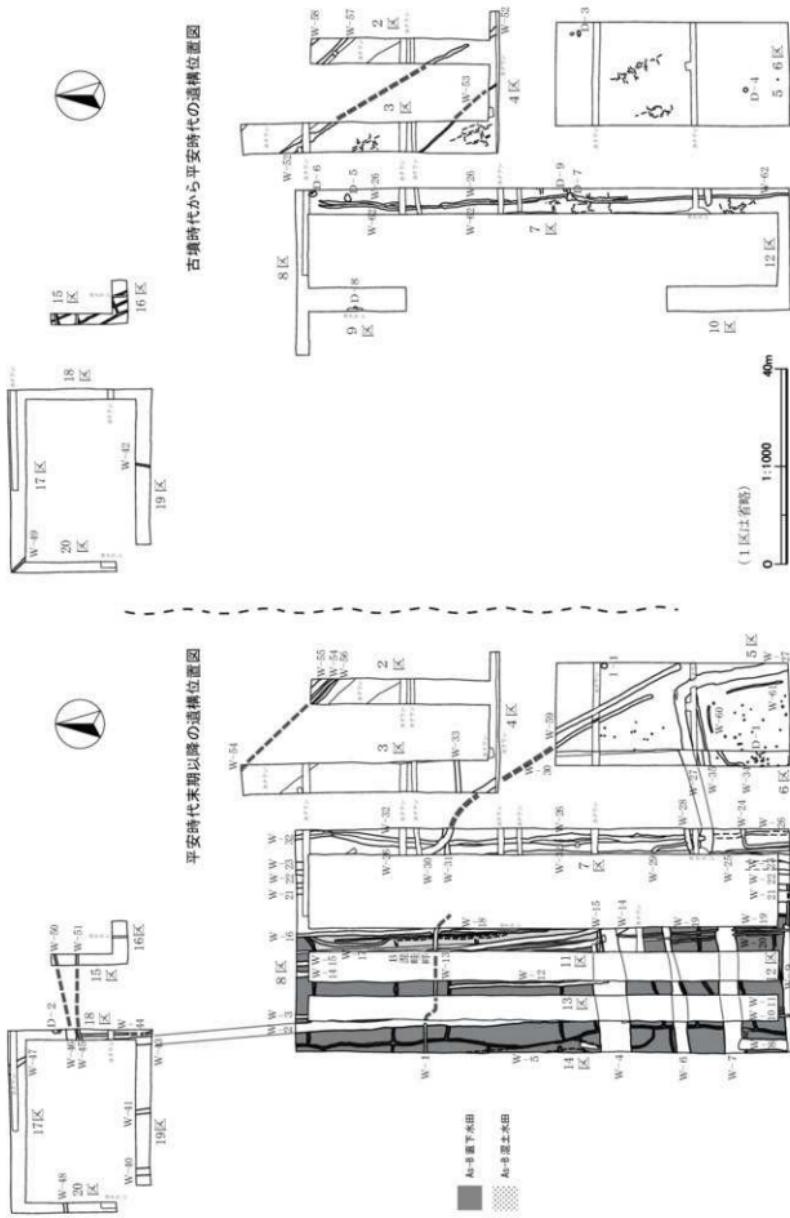
溝跡は、7区でA s - Bの降下で直接埋没したW-26号溝が検出された。南北方向に約100mに亘って調査区を縦断して走っていた。B下の水田跡と同時であるが、やや蛇行が大きく埋土の様子からも水路とは考えられなかった。これにはほぼ重複して走る中世のW-32号溝は、その位置や規模からみて26号溝の掘り返しの可能性が高いが、これには流水の痕跡がはっきり見られ水路であったことは明らかである。26号溝も本来水路の機能があったとも考えられる。

B軽石を多量に含む比較的古い溝は、W-12号・17号・18号・19号・20号・25号・29号・44号溝であり、南北の走向の溝のみである。7区から13区付近に集中している。11区の17号・18号溝は小規模で、B混土の水田畦畔に沿って走っており、畦畔構築の盛り土のための掘削痕の可能性がある。

中世以後も多数の溝跡が検出されており、重複の数を除いても44条にのぼる。走向は、地形の傾斜に沿うように北から南、あるいは東から西という方向がほとんどであり、全般的に比較的浅い皿状の断面形のものが多い。埋土中に流砂層などが認められ水路と確認できたものは、W-4c号（近世以後）・22号（中世以後）・23d号（中世以後）・23e号（中世以後）・25号（平安末～中世）・31b号（中世）・32号（中世）・55号（近世以後）・59号（中世以後）溝のみで比較的少なく、全体として水路としての用途というより区画などを目的とする溝が多かったものとみられる。

5・6区から7区の南端付近では環濠屋敷跡の一画（W-27号・23f号溝）が検出された。方形の区画とみられ、その北半部分の規模が明らかになった。東西の辺は内法で38mほどとみられ、北西隅部分は土橋状の外部との通路部分が存在すると思われる。溝の埋土は、上部にIV層とA s - B混土の大きなブロックの混じる層があり、これは土壌の崩落による流れ込みとみられ、濠の内側には土壌が築かれていたものと考えられた。内部施設は、

第27図 時期別遺構位置図



精査した範囲が全体の1／4ほどの範囲のみということもあり明らかにできなかつたが、W-34号・60号・61号溝は内部の区画溝の可能性が強い。屋敷跡に明確に伴うとみられる遺物は出土していないが、濠の埋土中や周辺部では内耳溝や軟質陶器の小破片が少量出土しており、これらは15世紀後半から16世紀前半頃の様相とみられた。

第II章で記したように本地域から南方の玉村町にかけての一帯には多数の環濠屋敷が現在も存在する。さらにその分布は利根川を挟んだ西岸の、前橋市元総社から高崎市下滝にまで及んでいる。このような環濠屋敷は防御を主な目的として、個人の屋敷の周間に方形を基調とした濠をめぐらせ土壁を築いたもので、上層の武士の城館址よりも比較的規模が小さく、戦国末期頃から一般的になるとみられている。一方、本遺跡の周辺には力丸城、宿阿内城といった中世城館址が立地しており、力丸城は戦国期以前の室町時代の築城と考えられ、その構造は方眼状列郭構造で自然発生的に環濠屋敷が連結して成立した姿とされる。このため、環濠屋敷の初元は戦国期をさかのぼり鎌倉時代末から室町時代初期頃になると予測されてきた。

本遺跡検出の環濠屋敷跡は単郭方形式とみられ全体の平面規模も小型であった。濠はV字形に近く小規模であり環濠屋敷の中でも比較的古い形態とみられる。出土遺物は明確ではないが、15世紀後半頃までには構築されていたものと考えられる。

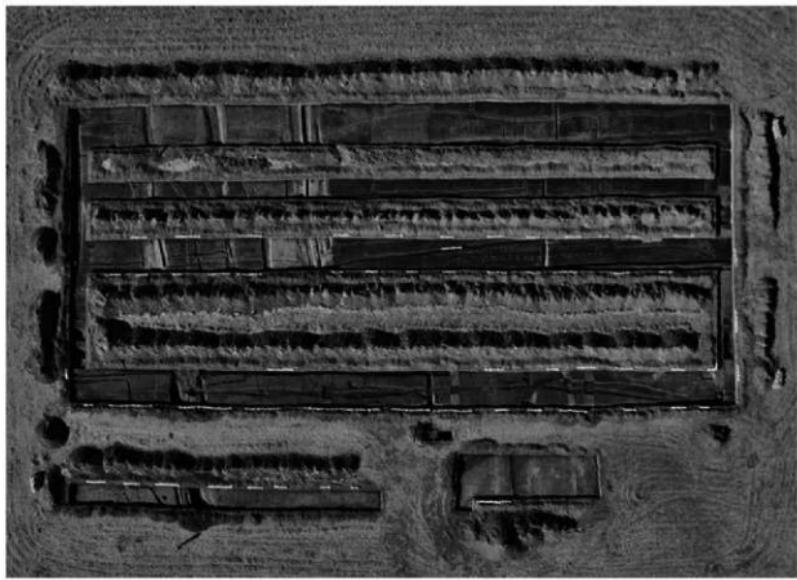
主な参考文献

- ・前橋市教育委員会 2011 『朝倉工業団地地理蔵文化財確認調査報告書』
- ・前橋市教育委員会 2012 『朝倉工業団地遺跡群』
- ・前橋市教育委員会 2012 『朝倉工業団地遺跡群No.3』
- ・前橋市教育委員会 2013 『朝倉工業団地遺跡群No.4』
- ・前橋市教育委員会 2013 『六供遺跡群No.7』
- ・前橋市教育委員会 2013 『上佐島中原前III遺跡』
- ・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1996 『西田遺跡』
- ・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1997 『六供下堂木II遺跡』
- ・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1998 『上佐島中原前遺跡』
- ・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999 『西田III遺跡』
- ・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999 『西田IV遺跡』
- ・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『南部拠点地区遺跡群No.1』
- ・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2010 『南部拠点地区遺跡群No.5』
- ・前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2011 『南部拠点地区遺跡群No.6』
- ・警察宿舎遺跡調査会 1998 『公田東遺跡』
- ・群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『龜里平塚遺跡・横手官田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡』
- ・群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『鶴光路桜橋遺跡』
- ・前橋市 1971 『前橋市史』第1巻
- ・前橋市教育委員会 2013 『朝倉・広瀬古墳群』

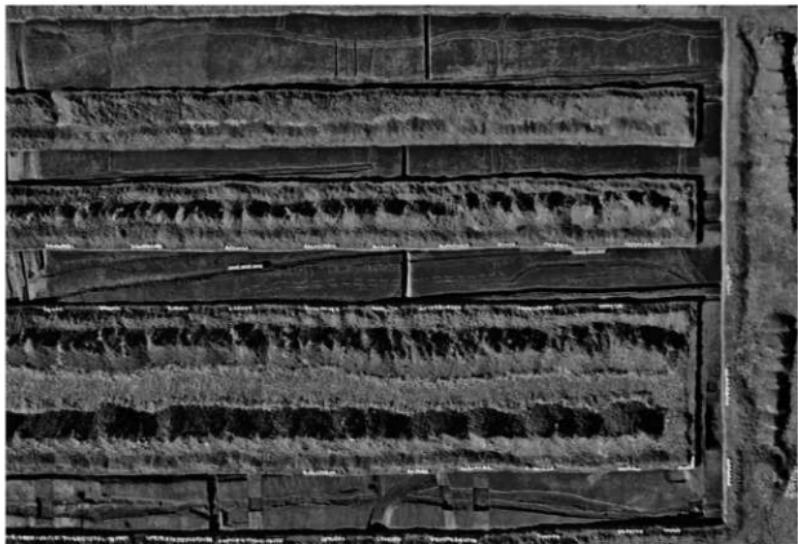
写 真 図 版



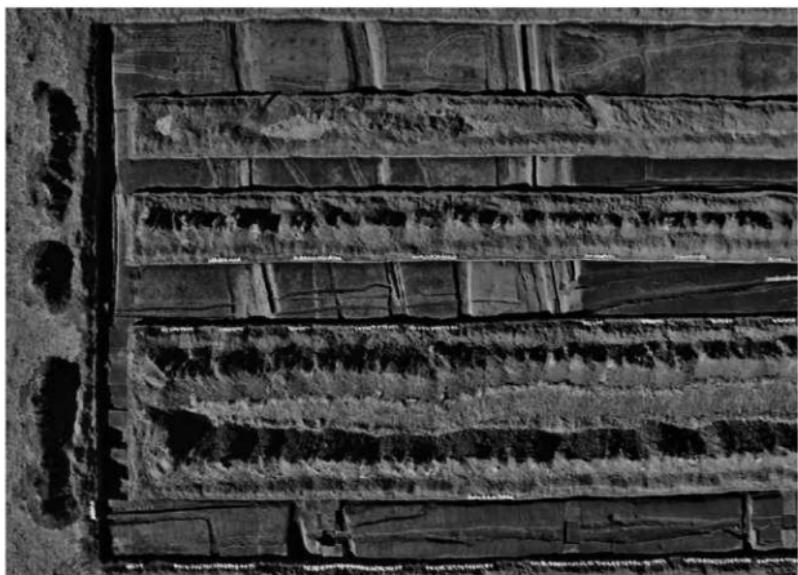
調査地と浅間山（正面奥）、榛名山（右奥）



A s-B層下調査面全景（右が北）



7・11・13・14 区北半、8 区 (右が北)



7・11・13・14 区南半、12 区 (右が北)



7区全景（北から）



11区全景（南から）



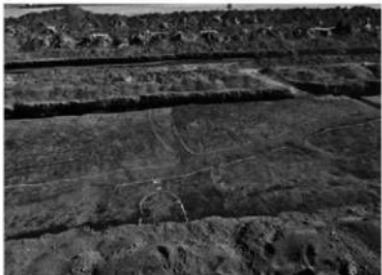
13区全景（北から）



14区全景（北から）



A s - B f 水田跡 区画③～⑥ (14区、西から)



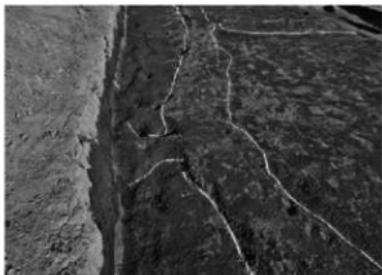
A s - B f 水田跡 区画⑦～⑩ (14区、西から)



A s - B f 水田跡 区画⑪～⑯ (14区、南東から)



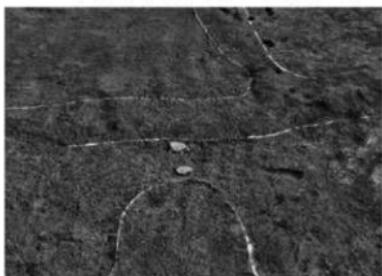
A s - B f 水田跡 区画①～③水口 (14区、南から)



A s-B下水田跡 区画②→④水口 (14区、南から)



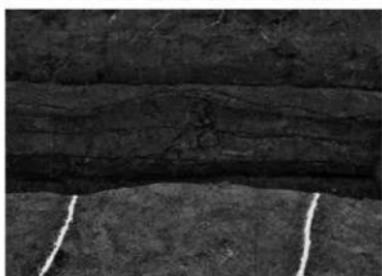
A s-B下水田跡 区画⑥→⑧水口 (14区、南から)



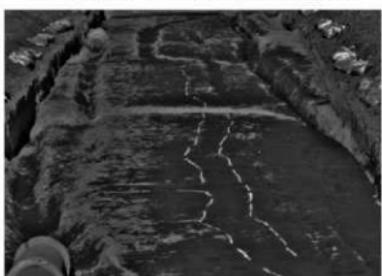
A s-B下水田跡 区画⑧→⑨水口 (14区、西から)



A s-B下水田跡 畦畔断ち割り A (14区、南から)



A s-B下水田跡 畦畔断ち割り C (14区、東から)



A s-B混土水田跡 模似畦畔、及びW-17号・18号溝 (11区、南から)



W-1号溝土層断面 (14区、東から)



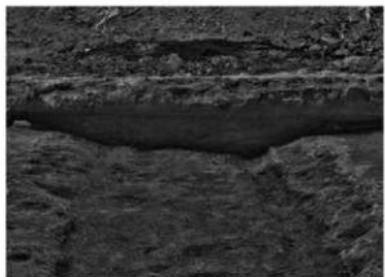
W-2号溝土層断面 (14区、南から)



W-3号溝土層断面 (8区、南から)



W-4号溝土層断面 (14区、南東から)



W-6号溝土層断面 (14区、東から)



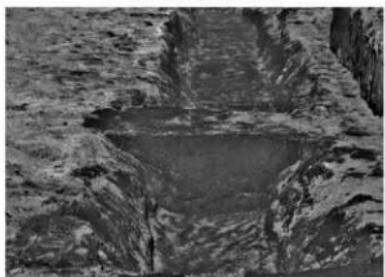
W-7号溝 (13区、北東から)



W-9号溝 (12区、西から)



W-10号溝 (左)・11号溝 (右) (12区、南から)



W-12号溝土層断面 (13区、南から)



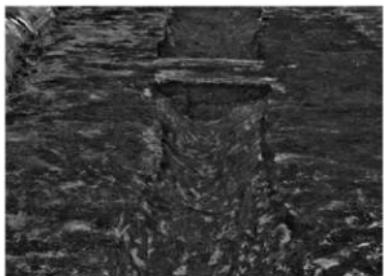
W-13号溝 (13区、東から)



W-14号溝（右）・15号溝（左）（8区、北から）



W-16号溝土層断面（8区、南から）



W-17号溝土層断面（11区、南から）



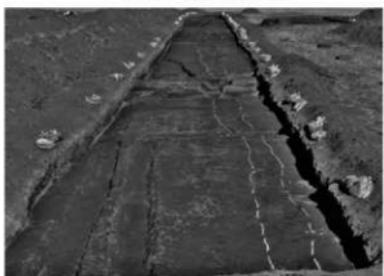
W-19号溝（右）・20号溝（左）土層断面（11区、南から）



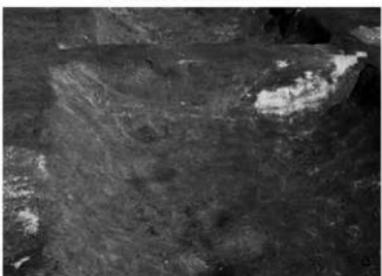
W-22号溝（12区、南から）



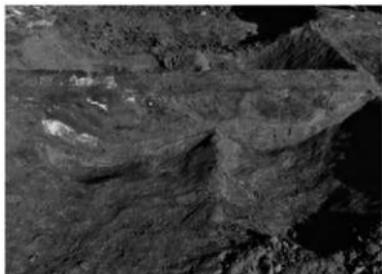
W-23号溝（12区、南から）



W-24号溝（中）・25号溝（左）・26号溝（右）（7区、南から）



W-26号溝（右半）・32号溝（左半）土層断面B-B'（7区、南から）



W-26号溝(左半)・32号溝(右半) 土層断面D-D' (7区、南から)



W-28号溝土層断面 (7区、西から)



W-29号溝 (7区、南から)



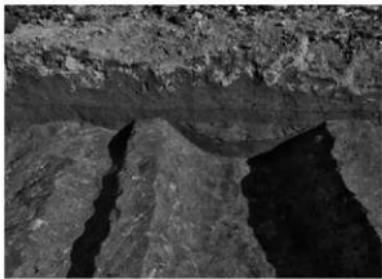
W-30号溝土層断面 (7区、西から)



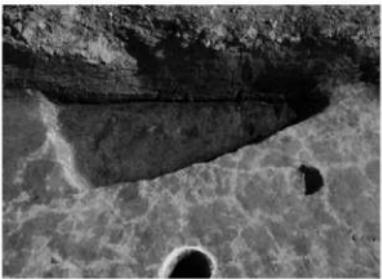
W-31号溝土層断面 (7区、東から)



W-33号溝 (3区、東から)



W-35号溝土層断面 (6区、西から)



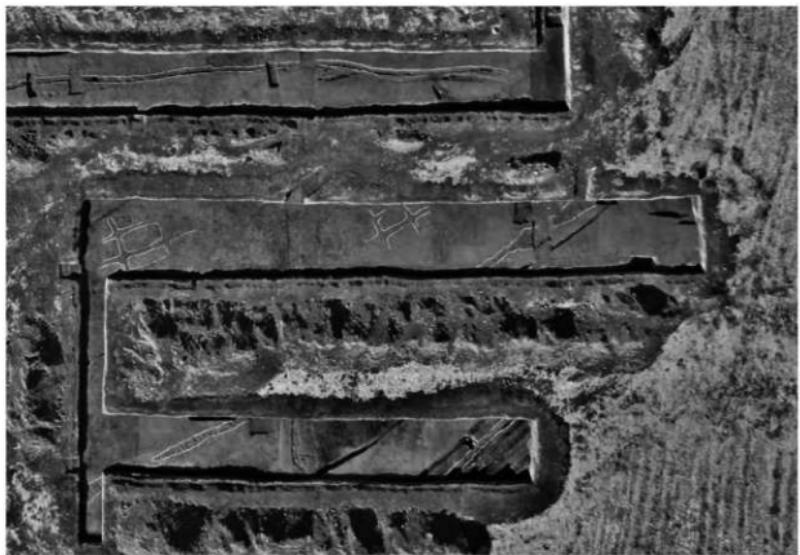
D-1号土坑 (6区、西から)



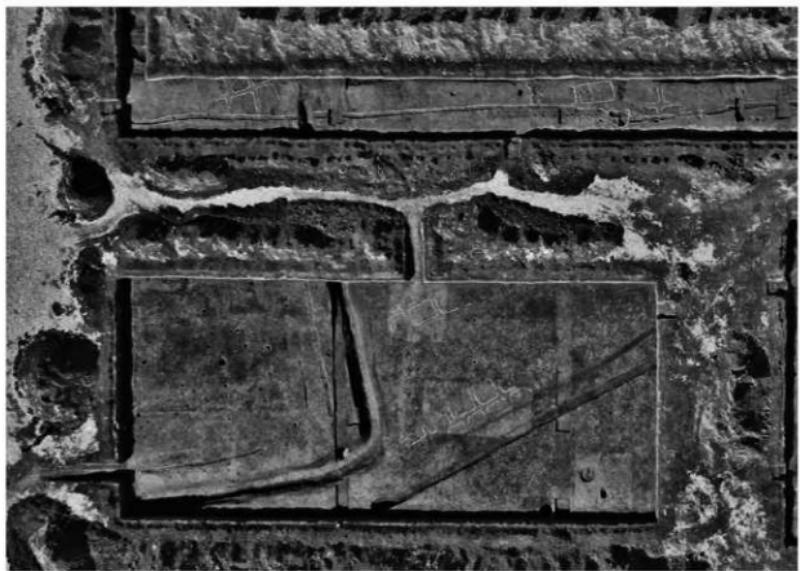
Hr - FA層下調査面全景 (上が北)



1区 (右が北)



2～4区、7区北半（右が北）



5・6区、7区南半（右が北）



15~20区 (上が北)



1区全景 (北から)



2区全景 (南から)



3区全景 (南から)



7区全景 (北から)



15・16区全景（南西から）



17区全景（東から）



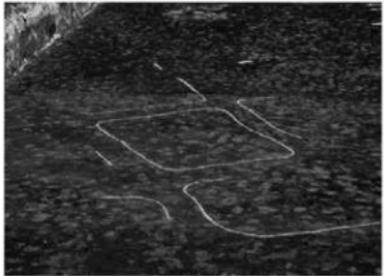
Hr-FA下 mound跡（1区、東から）



Hr-FA下 mound跡 遺物出土状況（1区、西から）



Hr-FA下 mound跡 断ち割り状況（1区、南西から）



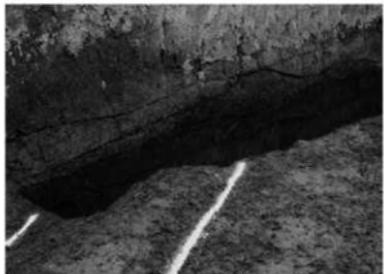
Hr-FA下水田跡（5・6区①-⑤、南から）



Hr-FA下水田跡（7区⑪-⑯、東から）



Hr-FA下水田跡（15区①-⑦、北から）



Hr-FA下水田路 畦畔断ち割り 1 (15区⑤・⑦、東から)



Hr-FA下水田路 畦畔断ち割り 2 (16区⑦・⑧、北から)



W-27号溝（灌漑施設跡）(5・6区、北東から)



W-27号溝（灌漑）北辺部 (5・6区、西から)



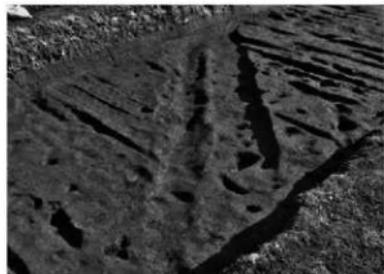
W-27号溝（灌漑）東辺部 (5・6区、南から)



W-27号溝（灌漑）土層断面B-B' (5・6区、東から)



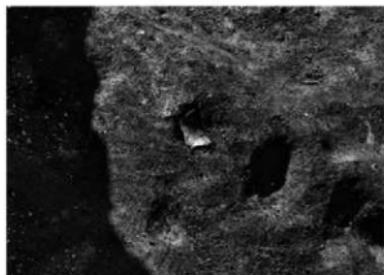
W-30号溝（右）・59号溝（左）(5・6区、北西から)



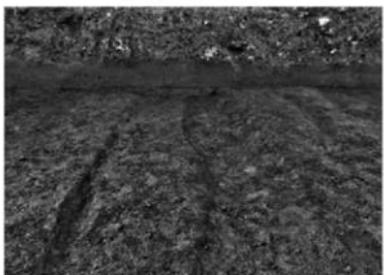
W-36号溝（1区、北西から）



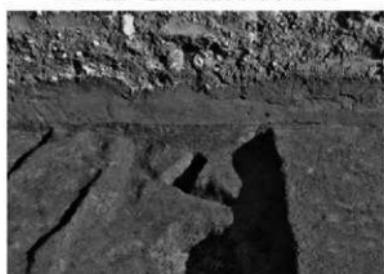
W-36号溝土層断面（1区、南東から）



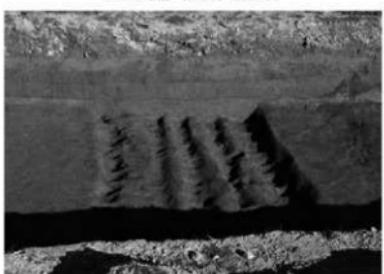
W-36b号溝 遺物出土状況（1区、北から）



W-37号溝（1区、東から）



W-39号溝土層断面（1区、西から）



W-40号溝（19区、南から）



W-41号溝（左）・42号溝（右）（19区、南から）



W-45号溝土層断面（18区、西から）



W-46号溝（18区、西から）



W-49号溝、包含層土層断面（17区、北西から）



W-50号溝（15区、東から）



W-51号溝（15区、東から）



W-52号溝、包含層土器出土状況（2区、北西から）



W-52号溝土層断面（3区、西から）



W-53号溝（3区、西から）



W-54号～58号溝（2区、北西から）



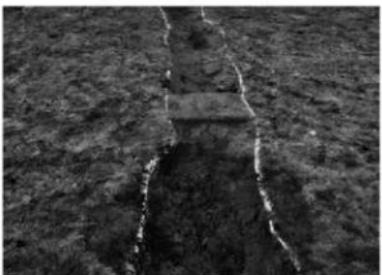
W-54号溝(右)・W-56号溝(中)・W-57号溝(左) 土層断面(2区、南東から)



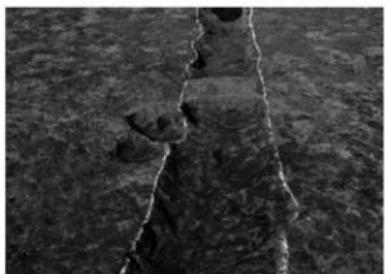
W-54号溝 土器出土状況(2区、南東から)



W-57号溝 枝部(2区、北から)



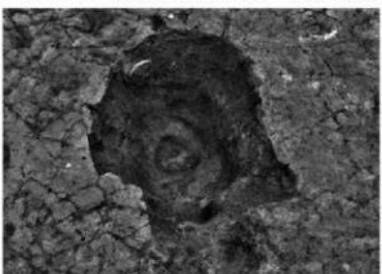
W-60号溝土層断面(5・6区、東から)



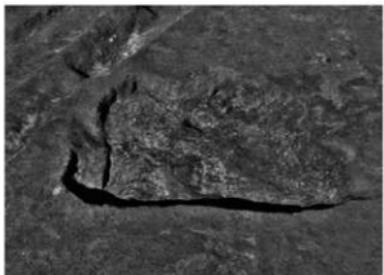
W-61号溝土層断面(5・6区、南から)



D-2号土坑(18区、西から)



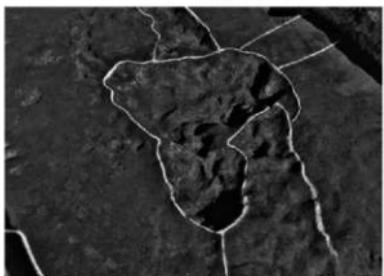
D-3号土坑(5・6区、西から)



D-5号土坑（7区、南から）



D-6号土坑（7区、東から）



D-7号土坑（7区、南から）



D-7号土坑土層断面（7区、南から）



I-1号井戸（5・6区、西から）



17区包含層 西端部遺物出土状況（東から）



17区包含層 西側遺物出土状況（南西から）



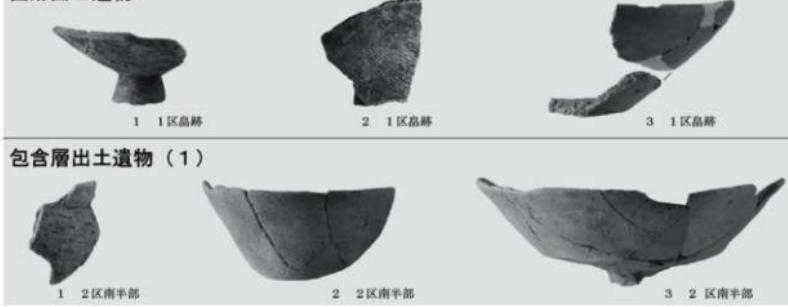
5区包含層 遺物出土状況（北東から）

溝跡出土遺物



土坑出土遺物

壘跡出土遺物



包含層出土遺物 (2)



抄 錄

ふりがな 書名	あさくらこうぎょううだんちいせきぐん なんばーに 朝倉工業団地遺跡群No.2
副書名	株式会社吉田鉄工所新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	
編著者名	福田貴之 井上 太
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町 1002 番地 1 Tel 027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会 〒371-0018 群馬県前橋市三俣町 2-10-2 Tel 027-231-9531
発行年月日	西暦 2013 年 8 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
朝倉工業団地遺跡群 No. 2	群馬県前橋市下佐鳥町 1-4、10-3、 14-2、19-1、 25-1、28-6、 28-7、29、30、 31、32、33-1、 34-1、34-2、 36、37、38、 39-3、39-4、 40-3、41-2、 42-2、43-3、 43-4、44-3、 44-4、45-3、 45-4、46-1、 46-6、193-5、 193-2、193-3、 193-4、204-2、 221-1、221-2、 201-2	10201	00805 (24675)	36° 21' 04"	139° 05' 30"	20121126 ~ 20130216	5,291 m ²	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝倉工業 団地遺跡群 No.2	生産跡	古墳時代	H r - F A 層下畠跡・ 水田跡・溝跡	古墳時代前期・中期 の土師器	古墳時代の畠跡・ 水田跡を検出。
		奈良時代	土坑・溝跡	奈良時代の土師器	
		平安時代末	A s - B 層下水田跡・ 溝跡		平安時代末期の水 田跡を検出。
	居館跡	中世以降	環濠屋敷跡・井戸跡・ 溝跡	中・近世の陶磁器	中世の環濠屋敷の 一角を検出。

朝倉工業団地遺跡群No.2

株式会社吉田鉄工所新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成25年8月23日 印刷

平成25年8月30日 発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

発行／前橋市教育委員会

群馬県前橋市三保町2-10-2

印刷／朝日印刷工業株式会社
